

神理の教え<上>

ーブログ「四柱推命は神様の黙示録」よりー

田中 風州

目次

- 1 2008-08-04 塩沼亮潤 -大峯千日回峰行者-
- 2 2008-08-07 雨の神様
- 3 2008-08-08 神様は子供を通して教える
- 4 2008-08-15 継続
- 6 2008-08-28 お釈迦様に供養された乳粥
- 6 2008-08-29 「はい」という返事
- 7 2008-08-30 元(もと)をかける
- 9 2008-08-31 糖尿病
- 10 2008-09-01 ゲリラ豪雨
- 12 2008-09-02 神様は優しくて恐ろしい存在
- 13 2008-09-12 夫婦の絆
- 15 2008-09-16 心(精神)を鍛えるとは
- 16 2008-09-17 地震
- 18 2008-09-23 墓地無用論
- 19 2008-09-24 八重歯
- 20 2008-09-26 顔付き
- 21 2008-09-29 幸と福
- 22 2008-10-01 理の判断
- 24 2008-10-03 和顔愛語
- 25 2008-10-09 心の病を治す第一歩
- 26 2008-10-10 食いつなぎ
- 27 2008-10-14 神棚をお祀りする
- 28 2008-10-15 仲良く暮らす種
- 29 2008-10-18 三つの使い方
- 30 2008-10-19 煩惱
- 31 2008-10-28 行くこと運ぶことが 信仰であり 進行であり 神行である
- 32 2008-10-29 明るい家庭
- 33 2008-11-01 お母さんの病
- 34 2008-11-04 "せいしん力"
- 36 2008-11-09 運命を拓く言葉
- 37 2008-11-11 因縁自覚
- 40 2008-12-02 波動の法則
- 41 2008-12-03 御恩返し
- 42 2008-12-08 明るく、前向きに！
- 43 2008-12-09 結婚したくない人へのメッセージ
- 44 2008-12-14 学徳
- 46 2009-01-02 平成 21 年(2009 年)は変革の年
- 48 2009-01-09 神葬祭に参加して感じたこと

- 50 2009-01-10 十日えびす
- 51 2009-01-11 一神会のおみくじさん
- 52 2009-01-25 風邪引きの種
- 54 2009-02-11 エコ人間
- 55 2009-02-17 一神会での祭式修行が無事終わりました。
- 57 2009-03-13 祓いの修行
- 58 2009-03-24 お目出たに必要なこととは・・・
- 59 2009-04-02 神理の教え・・・1
- 60 2009-04-06 料理(神理の教え)
- 61 2009-04-07 動物に生まれ変わる人とは(神理の教え)
- 62 2009-06-27 賭け事、勝負事の好きな人は要注意！
- 64 2009-07-10 鬱病(うつ病)対策
- 65 2009-09-12 長男が養子に出るのは怖い・・・

塩沼亮潤氏 -大峯千日回峰行者-

きのう(8/3)は、十月十日の講習会があり、その講習会へ行く途中、届いた雑誌「致知」九月号の特集に車内で目を通しました。

対談形式で、大峯千日回峰行を満行された塩沼亮潤氏(慈眼寺住職)の相手は、最近 TV でも活躍されている脳科学者の茂木健一郎氏です。

千三百年の歴史で満行はたった二人という、常人では果たせない過酷な行を完遂された塩沼氏の言葉には、なるほどなるほどと頷くことしきり…

日頃、自由宗教一神会で教わっていることと同じようなお話もあり、やっぱりそうなんだなあ…と、もっと精進に努めなければと心に深く留めました。

塩沼氏のお話で、特に心に残った次のふたつのことを少しご紹介します。

まずひとつは、反省(仏教の言葉では懺悔)。

『これは、「ごめんなさい」という単なる反省ではなく、「本当にしません、二度と同じことはしません」という深い深い反省です。懺悔の力、という言い方もします。「ただ懺悔の力のみよく積罪を滅す、悉く懺悔せよ」という教えで…』と塩沼氏は語られています。

論語にも「われ日にわが身を三省す」と常に自己を反省する教えがありますが、わたくしも含めた現代人は謙虚な心を取り戻し、利己心をできるだけ抑制するような心掛けが必要と思います。

そして、反省をかたちにするのが「お詫びの行い」です。

反省は尊い行いには違いないと思いますが、この世は現象世界、想うだけでなくそれを「具体的なかたち(行動)」にしなければなかなか現実として我が身に反映されません。

一神会で、事情や身情問題の克服、つまり幸せになるためには、「お詫びの行い」が大切と教えていただいています。

お詫びの行いとは、単に言葉だけで詫びるのでなく、お金や行動をお詫びのしるしとして、誠の気持ちを現す方法であります。

古来、お百度参りというのがありますが、家族や知人の急病などで神社でお百度を踏むのは、まさにお金と行動の両方を神様に受け取っていただくための行為です。

「悔い改める」という言葉がありますが、これを「悔いてお詫びして改める」という三段活用で考えるとどなた様も必ず幸福への第一歩を踏み出されることを断言します。

塩沼氏のお話でもうひとつご紹介したいのは、「人を赦す」ということです。

氏は、「私は人生も行も、つまるところ、すべて人を恨まない、人を憎まない、人のせいにはしない覚悟を持つことが出発点だと思っています…」と述べられています。

一神会でも、先ほど申し上げましたお詫びの行いととも大切なことのひとつに、「人を大目にみて赦してあげる」ということを教えていただいています。

理不尽な仕打ちや非情な出来事に見舞われた人は、なかなかこういった心境にはなれないと思います。

普通の人生でも恨みや憎しみなどは、ある面、人間の本能でもありますから、それを抑えて打ち消すことは難しいとは思いますが。

とくに、身近な縁者を赦すことは大変難しいことでもあると思いますが、世間の目から見て良い人といわれる人もそうではない悪人(社会的な常識や規範に欠けた人)といわれるような人であっても、そうした人と縁が生じたという不思議な巡り合わせは、人智を超えた神仏の計らいであると信じます。

”お詫びの行い”と”赦す”ということ。

このふたつを完璧にできる人は常人ではおられないと思いますが、少しでも意識的に取り組むのとそうでないのでは、五年、十年とすれば大変大きな差になってくると思います。

【田中風州のオススメ書籍】↓

●「ふしぎな記録第九巻」&「ソロンの予言書Ⅱ」浅見宗平 著

→わたくしが亡くなる時あの世に持って行きたい本をどれかひとつ選べといえば、迷わずこのふしぎな記録とソロンの予言書のシリーズ本のいずれかです。とくに、ふしぎな記録第九巻は天啓文書で神伝記です。ソロンの予言書Ⅱは占い師、鑑定士の方は必読と思います。



2008-08-07

雨の神様

最近、集中豪雨のような局所的大雨で、神戸や東京で思わぬ被害に遭われ、亡くなられた方もおられます。

本当にお気の毒なことと思います。

新たな都市型の天災(人災かも知れませんが)に急ぎ何か対策が望まれています。

ところでわたくしたち日本人は、毎日の天候を挨拶によく使いますね。

「毎日、暑いですね。」

「きょうはとっても良い天気ですね。」

「凍えるような寒さで大変ですね。」

といった具合で、差し障りのない時候の挨拶はよいのですが、たまにつぎのような挨拶とも独り言ともつかない声を耳にすることがあります。

「いやな雨ですね、早くやまないかしら。」

「また雨か・・・、うっとうしいなあー。」

とくに、雨に対してはおおかたの人の反応は厳しいようです。

しかし、よく考えてみて下さい。

わたくしたち人間も動植物も、水がなければ生きていけません。

飲料水だけでなく、洗濯やお風呂など生活に水は欠かせないものです。

水の恩恵は計り知れないものがあります。

雨も水のひとつです。

その雨に不足をいうということは、毎日毎日お世話になっているものに対して恩知らずなことをしていることになります。

大雨は洪水を引き起こしたりすることもあり気を付けなければなりません、雨をはじめ天候の悪口は言わないことです。

雨は、十種の神宝(とくさのかんたから)のひとつである、「上げ下げ飲み食い入る理」受持ちの神様方のおはたらきによるものです。

この神様方は、自然界では雨や雪を降らせることを、また人間世界においては身分や地位を上げたり下げたりするおはたらきを受け持っておられます。

ですから、雨や雪の悪口を言ったり、天候に不足をすると仕事上にも影響し、身分地位の下降、降格という事態にもなりかねませんので注意をしていただきたいと思います。



2008-08-08

神様は子供を通して教える

これまでたくさんの方の鑑定相談をお受けしましたが、ベストスリーは、①結婚(または離婚)問題、②仕事(適職や転職等)、③お子様の事情、身情問題 です。

ほかの占い師、鑑定士の方はどのように思っておられるか分かりませんが、わたくしはお子様のご相談がもっとも大変だと思っています。

理由は、夫婦の縁や仕事の縁は変えることができても、お子様との縁は終生変えることができないからです。

昨今、自分の子供が引きこもりや登校拒否で悩んでおられるご家庭は年々増加傾向にあるようです。

とくに精神的な異常でなくても、勉強しなくていつもゲームばかりしている・・・、フラフラ遊んでばかりで集中力がない・・・、それでご両親は事あるごとに「勉強しろ、勉強しろ」とやかましく子供を叱り続けて、親子の間が断絶状態・・・、というようなご家庭は少なからずあるように思います。

情けない話で恐縮ですが、わたくしの息子も性格は優しく友達付き合いもよいのですが、勉強でもスポーツでも続けてコツコツするという態度がまったく感じられません。

まだ自分にあったものが見つからないだけ・・・、とおっしゃっていただける方もありますが、これまでいろいろと神理の勉強をしていますので、息子のこのような態度もわたくしの責任と深く自覚している昨今です。

「神様は子供を通して教える」というのが、一神会での御神言のひとつです。

子供の病気や過ちは親の責任です。

縁あって男女結婚して子供が授かりますが、すでにどのような子供が授かるかは独身時代からの夫婦の思い行いで決定されています。

とくに妊娠中の父親、母親の思い行いは大切で、子供の性格から運命運勢に大きく影響します。つまり過去の夫婦の思い行いがすべて因縁となって、その因縁通りの魂を持った子供を神様は授けられるのです。

ですから、子供を見れば親の因縁が分かります。

四柱推命や紫微斗数などで調べなくても、お子様の状態をみればこれからの親御様の歩むべき道が予言されているのです。

一神会では、「子供は自分の来世の姿」とも教えていただいています。

ですから、子供を助けたければ親のお詫びが必要なのです。

考えようによっては、自分の因縁を子供を通して気付かせていただいているのですから、まことに有り難いことでもあります。

このあたりのことを鑑定に来られた方に納得していただくのは骨が折れます。

気を遣いつつお話し申し上げます。

でも、失礼ながら信仰心のない親はダメです。

まず、親も子ども助からないと思っておいたほうがよいでしょう。

お子様の問題を何とか良くしたい克服したいと思われるなら、まずは親のお詫びであることを忘れないでいただきたいと思います。



2008-08-15

継続

きょうは、四柱推命の定理のお話を五回続けましたので、神理のお話を書かせていただきます。わたくしは雑誌「致知」を毎月楽しみに拝読しています。

その致知出版社の藤尾社長が、致知の販売部数が伸び悩んでいた創刊当初、当時の TDK の社長、素野福次郎氏(故人)から次のようなことをいわれたということです。

「致知はそこの土手に咲く花ではないはず。深山(みやま)に咲く桜だろ。」

「深山の桜でもいい花を咲かせていたら、人はそこに足を運んでくる。」

そしたらそこに道ができる。そのときに深山の桜というのは大変な値打ちがでてくる」

藤尾社長は、創刊間もない頃、この言葉にどれだけ励まされたか知りません・・・、といわれています。

そして、致知は創刊 8 年目以降、大幅に部数を伸ばすに至ったということです。

話は変わりますが、以前、トイレ掃除で有名なイエローハットの創業者、鍵山秀三郎氏の講演を

拝聴したことがあります。

鍵山氏はトイレ掃除を 10、20 年と続けていくと、「冥加」が得られる」とおっしゃられたのがいまも強く印象に残っています。

冥加(みょうが)とは、神仏のご加護のことです。

トイレを綺麗にするという行いを、毎日毎日、継続して行っていると神仏のご加護が自然と得られることを身をもって体得されたのだと思います。

継続することの大切さは誰もが知っていることです。

しかし、ほとんどの人は単なる努力論として知るだけで、その深い意味についてはあまり語られていないようです。

この世は、「延々」と続くはたらきがあります。

地球は、太陽の周りを 1 年 365 日かけて回り続けています。

地球も 1 日 24 時間かけて自転しています。

地球も太陽も、いつきの休みもなく回り続けています。

人間の魂も輪廻転生、あの世とこの世を行ったり来たりして止まることはありません。

わたくしたちの体を流れる血液も心臓から末端の毛細血管までいって、体の隅々に栄養を運び続けまた心臓に戻ってきます。

この世は、「円運動(循環系を含む)」の世の中です。

円運動はこの世の大法則のひとつであり、神理のひとつであります。

「理」とは、神様のおはたらきのことです。

物理、数理、地理、料理、など、理とつく学問は、真理＝神理を探求することです。

円運動は、この世では家や会社を存続させるおはたらきとお金をご守護の神様が受け持っておられます。

ですから、世の中に役立つことや人様から喜ばれることを日々継続して行っていると、この「円の理」受持の神様に好かれご褒美(神仏のご加護)をいただけることとなります。

先程申し上げました、鍵山氏の冥加が得られる・・・、という意味がご理解いただけたかと思いません。

継続は開運法のひとつです。

どなたでも、明日からでも実行できます。

お仕事にまた勉強に、どんな些細なことでもよいから継続して取り組む姿勢を大切にしたいと思います。



2008-08-28

お釈迦様に供養された乳粥

インドは四大文明の発祥の地であり、また三大宗教である仏教発祥の地でもあります。わたくしも一度、機会があれば訪れてみたい国のひとつです。

きょうのブログは、インドで活躍されたお釈迦様のお話です。

以下、一神会の田畑先生よりお聞きした話をもとに書かせていただきます。

どうぞ、お読み下されば幸いです。

お釈迦様は六年間の苦行のあと、スジャータという村娘より供養された乳粥によって、やせ細って弱り切った身体を回復されました。

そのあと、菩提樹の下で悟りを開かれたということですが、このスジャータから供養された乳粥が、お釈迦様に “与える” ことの大切さを教えたのです。

それまでのお釈迦様は、人間の苦しみはいかにして解放されるかという、悟り(真理)を得ることばかりを追求されていました。

到底常人ではなし得ない苦行を厳行されたのも、一身に変えても悟りを体得したいという強い願望があったからだと思います。

しかし、そうした求める心が強いちはお釈迦様でも悟りを開くことができませんでした。

六年の苦行で精根尽きて、苦行そのものに疑念を持たれていたときに、純真な村娘から授かった乳粥で、“与える”、“施す” ことの大切さに気付かれたのだと思います。

わたくしはスジャータは神様の使いではなかったかと思います。

余談ですが、インドで牛が神聖な動物として尊重されている理由ですが、このお釈迦様に供養された乳粥にあります。

牛のお乳で生まれ変わられたのですから、仏教発祥の地インドで牛が神聖な動物とされたのは当然といえば当然ですね。

“与える” ことの大切は、古今東西、あらゆる宗教の原点であり、神理の教えのひとつです



2008-08-29

「はい」という返事

わたくしは自慢ではないですが、銀行や区役所等の受付や窓口で自分の名前を呼ばれたときに、「はい」と返事をするように心掛けています。

子供の頃は学校で先生から元気のいい返事をするように教えられたと思いますが、だんだんと大人になるにつれて、「はい」と返事をする人は少なくなっていくようです。

黙って、無言で受付や窓口へ行くのは、端で見えてもどうもあまり気持ちのいいものとは思え

ません。皆さまはいかがですか？

恥ずかしいという思いがあるからかも知れませんが、できるだけ、「はい」というよい返事をしたほうが得です。

つまり、「はい」といえる人は、一般的に素直な人という周囲からの評価が得られます。学校でも会社でも素直な人は、先生や上司からの信用信頼も得やすくなり、自然と成績が伸びる結果となります。

また、神理の教えでは、「はい」は「入る理」と教えていただいています。

お金にも恵まれるということです。

返事のないのは、どこにいるのか分からないという理で、行方不明の因縁に繋がります。

さらに怖いのは、「はい、といえない」、「はい、と‘家’ない」ということで、天災で家(自宅)がなくなる因縁にも繋がってくると一神会で教えていただきました。

家庭で子供が親に呼ばれたときに、「はい」とよい返事ができれば、まず明るく健全な家庭です。

でも、残念ながら、わが家も含めて子供が親により返事ができる家はほとんどないのではと思います。

子供の躰は、「つ」の付く歳までに決まるといわれています。

ひとつ(一歳)、ふたつ(二歳)、みつつ(三歳)、・・・、ここのつ(九歳)ですから、小学校4年生くらいまでです。

このときまでにきちんと挨拶のできる子供、またよい返事のできる子供に育てることができれば、子育てはほぼ成功したようなものです。

そのためにも、母親が主人(夫)に呼ばれたときに、「はい」と返事をする習慣があれば、子供は自然と母親の真似をして、「はい」とよい返事ができる子になります。

これから出産、育児を控えておられる女性は、是非、心掛けていただければと思います。



2008-08-30

元(もと)をかける

“元(もと)をかける”というキーワードで検索すると、お茶漬けの「もとをかける」とか、スープの「もとをかける」という検索結果ばかりですね。(笑)

ここでいう、元(もと)をかけるの元とは、“元本”とか“元手(資本)”という意味です。

新しく事業や商売をはじめるにあたって、どんな事業や商売でも最初にお金を投資しなければなりません。

たとえば商品販売ですが、まずは出店のために賃貸自己所有を問わずそれ相応のお金が必

要です。

インターネット通販のような無店舗販売でも、楽天などの大手通販のポータルサイトに加入するには少なくない加盟料が必要ですし、独力でサイトを運営する場合でも、サイト作成費用や通信費がかかります。

そして商品の仕入れ代金や、販売費用、商品を届ける運賃等、自分ひとりで商売をはじめるにもかなりの自己資金が要ります。

いま申し上げたことは、新しくビジネスをはじめるのに当然必要な経費です。新事業や商売を新しくはじめるには、最低限の投資(資本)が必要だということです。

ところで、表題の“元をかける”とは、いま申し上げた絶対に必要な資本金とは少し趣が異なります。

どういったらいいか少し難しいですが、新しい事業や商売を開始するにあたって、“目に見えない投資”あるいは“事業商売が発展するための先行投資”というようにお考えいただけたいと思います。

これも一神会の田畑先生からお聞きした話ですが、千葉浦安の東京ディズニーランドはリピート客も多く、テーマパークで一人勝ちの様相です。

いまはどうか知りませんが、ディズニーランドがオープンする以前には、あのあたりには漁港もあったということです。

そこに大規模なテーマパークを建設することは、漁業関係者には迷惑な話です。

ディズニーランドの関係者の方は、近隣の漁業関係者の方たちにできるだけ理解し協力していただくために、連日のように酒宴を催し、まずは人間関係を築くために目に見えないお金、つまり元をかけたということです。

まことに日本的な慣習にしたがった接待のしたかですが、どんな事業や商売でもできるだけ賛同者を得ることは大切です。

憎まれたり嫌われたりするのは決して好ましくありません。

ディズニーランドの今日の繁栄は、コンテンツやソフト面の素晴らしさももちろんあるでしょうが、目に見えない投資、元をかけたということも是非知っていただきたいと思います。

いま申し上げたことは、大企業だからできたので、小さな会社や個人で商売をするような場合はとても無理・・・と思われた方もあるかも知れません。

ごもつともなお話かとも思いますが、決して無理をする必要はありません。

無理は“理がない”ということで、神様のおはたらきがいただけないということですからよろしくありません。

大事なことは、「出さないと入ってこない」という「出す理」のはたらきのある世の中です。

まずは、“出す”つまり“元をかける”ということをお忘れなくいただきたいと思います。これを忘れると、いつかは“元も子もなくなる”ことになるかも知れませんので気を付けて下さい。



糖尿病

きょうお話しますことは、糖尿病で困っている方、難儀しておられる方にはまことに申し上げにくいことですが、少しでもよくなっていたきたいと願いつつ、書かせていただきます。

たまに鑑定相談をしていますと、主人が糖尿病で・・・、と耳にすることがあります。

糖尿病は食べ過ぎ、飲み過ぎの贅沢病？ とかいわれたりしていますが、原因は炭水化物の代謝障害で、血液の中に入った大量のブドウ糖が筋肉や脂肪細胞にうまく入れなくて尿から糖が出る病気ということです。

でも、なぜそうなるのかの医学的な原因は不明だそうです。

糖尿病が怖いのは、特有な合併症を併発して網膜症で失明したり、神経障害で足先のしびれ痛みから神経が麻痺し、糖尿病性壊疽(感染・血流障害などで体の一部が死んでしまうこと)となることがあるからです。

糖尿病の真の原因は何なのか？

皆さまは知りたくありませんか？

糖尿病にならないためにも、またすでに糖尿病で苦しんでおられる方はお聞き辛いことと思いますが、どうか心を低くしてお聞き下さい。

今回も古代神道一神宮(現代名:自由宗教一神会)の浅見管長様の一番弟子の田畑広吉先生にご教授いただいたことですのでご承知下さい。(田畑広吉先生のことは、書籍「ふしぎな記録」第五巻に詳しく載っています。)

神理学では糖尿病は、「甘えったれ」の人がかかる病気です。

甘い食べ物が好きな人のことではありません。

お金に関して、甘い人ということです。

端的な例は、マイホームを建てるのに、妻の実家から頭金やローンの一部を出してもらって、それを返さないような男性がかかる病気です。

たとえ義理の親であっても、借金は借金です。借りたものは、返さなくてはなりません。

仮に妻の両親が、可愛い娘夫婦が住む家だからお金は返さなくていい・・・、と気前のよいことをいわれてもダメです。

養子ならともかく、妻の実家は基本的に他家ですから、タダでもらうことは筋が通りません。

タダでもらうような、甘えったれだから糖尿病になるということです。

お金をタダでもらったという事情が、糖尿病という身情になったわけです。

お金の貸し借りについては、非常に厳しいようですがきちんとしなければなりません。

目を患うのはいろいろ原因がありますが、神理学では、眼鏡＝目金 でもあり、お金と密接な関係があります。

糖尿病で目を患うのは、お金が原因ということです。

余談ですが近眼(わたくしも近眼で反省しています)も、神理学では、近目＝‘ちかめ’ といひ何事も自分のことや自分の利益を優先する人です。

それと足の壊疽ですが、足は神理学では、お足＝お金 の理で、足の病や怪我はお金に大きく関係しています。

因みに満足という言葉がありますね。

なぜ、"足" が満たされて満足というか、お金が充分ということだからです。

糖尿病で足を患う人はまず右足です。右は入る理だからです。

四柱推命や紫微斗数の占術では、このようなことまで分かりません。

運命学や占術を生業とする方は、是非、神理学(神理の教え)も併せて学んでいただきたいと思ひます。

でなければ、本当の人助けはできないと思ひからです。

最後にお願ひです。

糖尿病の方に以上申し上げたことをそのままストレートに伝えたり、偏見の目で見ないようにお願ひ致します。

自分の蒔いた種でその種通りの結果で病になったとしても、知らなかったという人が多いというか大半だと思ひます。

人助けと思ひてお話ししても、言葉を選んで慎重にお伝えしなければ、ときには反発したり怒る方もありますので注意して下さい。



2008-09-01

ゲリラ豪雨

本日は、9月1日、一神会の第一御縁日で、久しぶりに参拝させていただきました。

いつも田畑幸治副会長様のすばらしい神理のお話を拝聴でき、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

本日のブログもそのお話の中から皆さまにお伝えさせていただきます。

以前、「雨の神様」というタイトルでブログを書かせていただきました。お読みいただいたでしょうか？

雨は、「十種の神宝」のひとつである「上げ下げ飲み食い入る理」受持ちの神様がご担当されているおはたらきです。

今年、ゲリラ豪雨といひますか、局地的な大雨で短時間に多量の雨が降って洪水や浸水の

被害があちこちで起こっています。

台風でもないのに、なぜこんなに一度に多量の降水があるのか、皆さまは不思議と思われませんか？

地球の温暖化が原因？のようであると耳にしましたが、気象学的にはそれもひとつの理由かも知れません。

日本の平均気温も年々わずかずつですが上昇しているということですから、単純に考えると暑くて日射が多いと、海からの蒸発した水蒸気が増えると思いますので、雨が多くなることは考えられますね。

ただ、どうして局地的なのか？

満遍なく広範囲に降ってくるとありがたいと思うのはわたくしだけではないと思います。

考えて見ますと、1リットルの水は1キログラムです。

何十ミリという大雨は、いったんどれくらいの水量になるのか？

何万トン、何十万トン、何百万トン、もっと多いかも知れませんが検討もつきません。

バケツの水一杯でも重いと感じるのに、想像もつかないような膨大な水を空中に上げて、風で陸地に運び、それを降らせるという偉大な自然のはたらきには畏敬の念を覚えます。

この雨を降らせるはたらきの神様が、「上げ下げ飲み食い入る理」受持ちの神様方で、降雨や食物を与えることもご担当されています。

昨今、食品の安全志向が高まるのは悪いことではありませんが、TVでコンビニやスーパーなどで、賞味期限が切れた弁当や惣菜を多量に廃棄しているのを見るとなんともやりきれない思いがいたします。

また、豊作貧乏になったら困るということで、畑で出来過ぎた野菜や果物を廃棄する光景もTVで何度もみたことがあります。これも賞味期限が切れた食品を捨てるのと同じ行為です。

農作物の生産者もコンビニ、スーパーなどの販売者も、消費者であるわたくしたちもみな食べ物を粗末にし、無駄にしている世の中になりました。

いまは世界中の美味しい食べ物が手に入ったり、温室栽培などで季節はずれの食べ物も食することができるようになりましたが、本当にこれが正しいことなのか、よいことなのか考えさせられる時代となってきたように思います。

昔の人はよく悪いことをすると、“バチ(罰)があたる”といいました。

飽食の時代といわれて久しいですが、最近のゲリラ豪雨はわたくしたちに食べ物のバチがあつたということではないかと思われます。

(大雨で被害にあわれた人や縁者の方が気を悪くされたら申し訳ありません。お詫びいたします。)

食べ物は、元来、人様に“与える”ものであり“施す”ものです。

捨てたり、無駄にするということは恐れ多いということを、わたくしはじめ皆、意識をあらためる必要があります。

また、TVで大食い競争などを行っているのを見ると、わたくしはすぐにチャンネルを変えますが、

TV局もこのような番組を制作すること自体、日本の恥と思うような良識ある人は放送局にはおられないのでしょうか？

脅かすつもりは毛頭ありませんが、このような低俗な番組を放映していると、いつか食べ物に困るようなバチがあたるか、職を失うようなことになってしまいますので早くあらためていただきたいと思います。



2008-09-02

神様は優しくて恐ろしい存在

昨日、一神会御縁日に参拝させていただきましたが、帰り際に本部員の大原先生と少しお話し致しました。

すると思ってもみないことですが、先日、わたくしのホームページを管長様と一緒にご覧いただいたということで、まことにありがたいことと感謝の気持ちをお伝えしました。

一神会の御神言に、

「さあひろめよや このおしえ ひろめしだいたすける ひろめしだいおさめる」

とあります。

わたくしははなはだ微力ではありますが、一神会の諸先生方より教えていただいた神理の教えを差し障りのない範囲で皆さまにお伝えしたいと思います。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

就きましては、ひとつだけお願いしたいことがあります。

どうか神理の教えのお話しに文句をいったり、反対したりしないようにして下さい。

いままでも「円の理」(円縁繋ぎの理)御守護の神様方や、「上げ下げ飲み食い入る理」御守護の神様方のお話をさせていただきましたが、目には見えない形而上学のことでですから信じられないと疑問に思われる方もあるかと思ひます。

しかし、現代科学でもまだまだ分からない未知の分野はいっぱいあります。

目で確かめられることだけを信じていたのでは進歩はありません。

厳然として存在する神理(真理)は学べば学ぶほど、「なるほど！」と思わず声を出してうなづくことばかりです。

ですから、不審に思われる方は、わたくしが推薦しています書籍「ふしぎな記録」や「ソロンの予言書」をどうかすべて読んでみて下さい。

合点がいくことと思ひます。

それでもなおこの教えに反対したりしますと、神様に反対したことになりますので、倒れたり潰れたりしますので大変なことになってしまいます。

どうぞそうならないようにお気を付けいただきたいと思ひます。

神様は優しくて恐ろしい存在です。

今の人間世界の人々の多くは、神様に嫌われている人が多いように思います。
理由は、神恩を忘れ、神様の教えより遠ざかっている人がほとんどだからです。
わたくしも神様に嫌われないように頑張っていきたいと思います。

もうすでに最後の審判の時代となっているということです。

古代にあった「ノアの箱船」に乗れる人と乗れない人の選別がはじまっているということです。
もう一度、生まれ変わったときに人間にさせていただけるかいただけないか・・・
すべて神様の御心次第です。

御神言に、

「そのからだ ころとおりにあらわして かしあたえた」

とあります。

動物のような心遣いの方は、次の世、生まれ変わったときは動物に生まれてきます。
そうなってしまってからでは、泣いて(鳴いても)も、騒いでも手遅れです。
いったん動物と生まれたものは、二度と人間には戻れないからです。
そうならないためにも神理の勉強をして、神様の御心に適う思い行いが大切です。

万物の霊長である人間と動物のもっとも大きな違いはなにか？

わたくしは信仰心の有無だと思います。

信仰心のない人は、申し訳ありませんが動物と一緒にということになります。

路傍のお地藏様に手を合わせたり、偉大なお月様や太陽を崇拝する素朴な信仰もよいですが、さらに一歩進んで、この世の仕組みや不思議な理を少しでも悟るために、神理を勉強することが人間本来の務めであり、神様に好かれる第一歩であると思います。



2008-09-12

夫婦の絆

熟年離婚が増えているということです。

『同居期間 25 年以上の熟年夫婦の離婚は、ここ 10 年で 2 倍以上に増えています。

同居期間 30 年以上に限ってみると 3 倍近くになりこの増え方は、離婚全体の増加率の 2 倍にもなります。しかも、そのほとんどが妻からの申し立てによるものです。』

→ <http://www.sla.or.jp/check/rikonn0312.html> (財団法人シニアルネサンス財団)

熟年離婚が増えているということと、そのほとんどが妻からの申し出ということに、世の熟年亭主

は心に留めておく必要がありそうです。

四柱推命の鑑定をさせていただいて、夫婦の問題、離婚のご相談の割合はかなり多いですが、別れたい理由を伺うと女性側の主張のみで一方的に判断するのは片手落ちと思いますが、多くは夫のわがままと不倫と言葉の暴力がベストスリーのように思います。

ただ、熟年離婚の方は上記理由もさることながら、子供が独立したことや社会的に自立して自分のやりたいことをしてみたいという願望追求がそうした行動に拍車をかけているのは間違いなさそうです。

長年、家庭に縛られ我慢してきた妻が、子供の結婚や独立を契機として、離婚を亭主に迫る・・・、なんだかお昼のドラマ番組にありそうな話題ですが、現実にはそうした熟年離婚が多いのではないのでしょうか。

“絆”という言葉は、わたくしの好きな言葉のひとつです。

夫婦の絆、親子の絆、兄弟の絆、・・・、いろいろな絆がありますが、なかでも夫婦の絆ほど脆弱なものはないように思います。親子や兄弟は血縁という強い絆がありますが、夫婦はもともとは他人同士。

絆は意識して保っていかないと、細くなったり切れたりしてしまいます。

ところで、臨床心理学の権威である河合隼雄先生の著書「こころの処方箋」に、“男女は協力し合っても理解し合うことは難しい”とありました。

これは男女の違い、夫婦の在り方を考えるうえで大変示唆に富む言葉だと思います。

家のローン返済のために夫婦必死で働くとか、子供をいい学校に行かせるためとか、夫婦が共通の目標を持っているときはお互いに相当協力できるが、理解という点では命がけの仕事に匹敵するほど大変だとおっしゃっています。

翻って考えますと、わたくしの場合などまさにそうですが、夫婦の会話のほとんどは、互いを理解するための会話ではなく、先ほど申し上げたような共通の目標や課題のことを話題にしているように思います。

ですから、あるときこうした夫婦に共通した目標なり課題がなくなったり解消されると、とたんに夫婦の会話がなくなり、家庭内別居のような有様になってしまうように思います。(わたくしもいまから気を付けたいと思っています)

夢もロマンもないことを申し上げて恐縮ですが、“愛”こそ強い絆とっておられる方もあるかと思いますが、でも、“愛と憎しみは紙一重”という言葉もあるくらいですから、人間の感情は諸行無常です。

また、“愛”と“好き”という感情を一緒にしておられる方も多いように思いますが、本当の愛は母親のわが子に対する無償の愛のように極めて強固なものですが、男女の恋愛という愛はどうもそのような無償の愛にはほど遠いように思います。

年老いても夫婦の絆を維持しようと思うなら、夫婦の共通の目標を常に保ち続ける努力が必要なのではないのでしょうか。

最後に、世間にはいま申し上げたことにはまったく無縁の仲の良い、周囲からも羨ましがられるご夫婦もたまにおられます。

どこへ行くにも夫婦一緒に、考え方や行動様式まで、果ては顔かたちまで兄妹のように似ているご夫婦をまれにお見かけすることがあります。

このようなご夫婦は前生も夫婦で、生まれ変わってまた夫婦となったが、あまりに仲がよすぎるので子供が授からない(ほしくない)場合が多いようです。

一神会では「夫婦は二代」¹⁾と教えていただいています。

つまり同じ人同士が夫婦になるのは二回までは認めていただけますが、三回目はありません。

理由はお分かりだと思いますが、同じような価値観、行動様式の人同士は心の葛藤や摩擦を生じることがほとんどないので、魂の進歩向上が望めないからです。

そのように考えますと、夫婦という絆を維持するために努力したり、ときにはストレスを感じたりするのも神様の御心に適ったことといえるのではないのでしょうか。



2008-09-16

心(精神)を鍛えるとは

身体を鍛える人は多いが、心(精神)を鍛える人は少ないといわれます。

散歩、ジョギング、フィットネスクラブ、ゴルフ等々、健康のためあるいは体力の維持向上のための努力は多くの人たちが行っています。

でも、心は目に見えないものだけに、自ら進んで心を鍛えようという人は少ないように思います。

きょうは、心を鍛えるとはどのようなことなのか、そしてどうすればそれを実行できるのか？

これについて少し考えてみたいと思います。

一般に心を鍛えるとは、忍耐力や根性を養うようにとられがちです。

かつて、NHKの朝の連続TV番組で、「おしん」という根性もののドラマがありましたが、高視聴率で海外にもこの番組は輸出されたということですから、日本人だけでなく外国の人も我慢することや耐えることは美德だと思っておられる方が多い証左ではないでしょうか。

わたくしも忍耐力や辛抱することの大切は重々承知しているつもりです。

四柱推命でも、人の精神的な強さをまず第一に調べますが、そのときに忍耐力や包容力のある強さを重視してみています。

忍耐力は美德、長所のひとつには違いないと思いますが、人間の長所はそればかりではありませんし、長所も過ぎれば短所になり、短所も視点を変えれば長所にもなり得るものです。

ところで、以前のわたくしのメルマガで、

『悟りということは、いかなる場合にも平気で死ぬることかと思っていたのは間違いで、悟りということはいかなる場合にも平気で生きていることであった。(正岡子規の「病床六尺」より)』

と、ご紹介しました。

いついかなるときも平気でいられるという人ほど、心の強い人はいないですね。

平常心といっていいかどうかは分かりませんが、いまは適当な言葉が思い浮かびませんので、このような心の強い人を平常心に富んだ人ということにします。

精神力が大事であるとか、忍耐力が必要だとか、根性は美德だとか、そのように思ったり唱えている間は、どうも “心” がそれにとらわれているように思います。

耐えなければならぬとか、耐える努力が素晴らしいとか、一種の社会規範に拘束されている自分の心がそこにあるように思います。

どのような状況下にあっても、いま、自分がなすべきことを淡々と実行できる平常心を持った人、これが本当に心(精神)の強い人というのではないのでしょうか。

このような平常心は、ひとつの悟りの境地ともいえると思いますが、一神会の御神言にも、

『幸せは 悟りしだいの 受取りしだい
苦勞難儀も楽しみに 変えてしまいが 悟りの力』

とあります。

“悟り” とは何か？

どのようにしたら少しでも得られるものなのか？

得たいと思っても得られない、智慧のように授けていただくものなのか？

...

等、続きはまた後日(時間がゆっくりあるときに)、いまのわたくしの考えを整理してお伝えしたいと思えます。



2008-09-17

地震

天災の中でももっとも恐ろしいのは地震ではないでしょうか。

地震の予知はなかなか難しいようですし、さきの岩手・宮城内陸地震では強い震度のわりに被害が少ないという不幸中の幸いがありました。活断層だらけの日本ではどこに住んでいても安心ということはないようです。

平成7年1月17日未明に起こった阪神・淡路大震災のときは、わたくしは大阪市内に住んでいましたので、お陰様でほとんど被害に遭わずに済みました。

震災当日はまだ交通規制がありませんでしたので、得意先の会社の寮におにぎりとお布団を届けるために、夜中に軽四トラックで神戸市灘区の阪急六甲のほうへ行きました。

途中、西宮、芦屋、東灘区、灘区と国道二号線沿いに進みましたが、停電で真っ暗な中、月明かりに照らされた町並みは爆撃にあったような光景で、まるでゴーストタウンのようでした。

阪神高速道路が倒壊して、車が押しつぶされぺしゃんこになった横を通り抜けたり、途中、ガス漏れの異臭があつたりと、普通なら1時間くらいでいける距離を車の通行が可能な道を探しながら、約4時間くらいかけて目的地へたどり着いた経験は一生忘れることはないと思います。

この大震災を予言されていた方がおられます。

一神会の浅見宗平管長様です。

平成6年9月1日に発行されました、「ソロンの予言書Ⅰ」におきまして、「平成7年 西暦1995年 日本及び世界各国に大変動」というタイトルで予言予告されています。

天変地変はなぜ起こるのか？

についても詳しく記述されていますので、ご興味のある方は、一度お読みいただければと思いますが、“天変” “地変”と言葉にありますように、天変ののち地変が起こることということで、国の偉い人たち(大臣、政治家等)がぐらついて(政局)不安定であると、地変につながるということです。

ちょうどこのときは、

平成5年8月に日本新党の細川護熙内閣が発足。

平成6年4月に 細川内閣総辞職。

同年同月、羽田孜内閣発足。

同年6月、羽田内閣総辞職。

同年同月村山富市内閣が発足。

と、わずか1年くらいの間に内閣が三回変わっています。

最近も安倍内閣、福田内閣、そして次の内閣はどなたが総理になるかまだ分かりませんが、1年持つか持たないかの短期の内閣は、阪神・淡路大震災の前の政治状況とよく似ているようにも思います。

この大震災のときもそうでしたが、被害に遭われた方は大変お気の毒なことと思いますが、同じ地域に住んでいても隣近所の倒壊した家屋から人を救助した方もおられます。

このような天災のときにわたくしたちの普段の信仰心と行いがものをいうように思います。

避難所において助けられる側になるのか、反対に救助や援助に向かう助け人となるのか、その人の器の大きさがはっきりと現れるように思います。



2008-09-23

墓地無用論

秋のお彼岸の真っ最中ですね。

わたくしも今日、お墓参りに行くつもりでしたが、昨日東京から五日ぶりに自宅へ戻ってきましたので、何やかやとやらなければならないことがたくさんあり、お彼岸の墓参りには行けなくなりました。

わたくしの墓地は奈良の富雄というところにあり、車で神戸の自宅より約 1 時間強で行けますので近いほうだと思います。

墓の面積はやや広いほうで、約 6 畳くらいありますので夏の雑草取りは結構大変です。

昨年、父の墓を新たに設けるにあたって、それまで四基あった墓石を田中家先祖代々の墓として一基にまとめ、戒名を書いた霊標を墓石の横に作りました。

これで少し墓の清掃が楽になりました。

わたくしは過去に墓相にも興味を持ち、少し勉強しましたが、吉相の墓を設けるのはいまの時代大変です。初期投資が非常に高額なのと、あとあとの維持管理の手間(とくに清掃)に苦労します。

少子化で長男か長女のみの一人っ子が多い昨今、両家の墓の面倒を子供たちに強いるのは可愛そうな気がします。

わたくしが日頃お世話になっている一神会では、標題にありますように墓地無用論を唱えておられます。

遺骨を納める納骨堂は必要ですが、狭い日本の限られた土地に立派な墓を作ればいたるところ墓だらけになってしまいます。

またほとんどの人は死後 80 年以内に生まれ変わるということですから、すでにこの世に生まれ変わっているご先祖様のお墓に参るといのもナンセンスな話です。

ちょっと冷静になって考えれば、誰もなるほどと思うのですが、とかく目に見えない世界のことで、よくない宗教家(屋)から先祖の霊の障りや水子の霊の祟りなどといわれて、先祖供養のために墓を勧められ買われた方も多いのではないのでしょうか。

先祖供養はご位牌を安置する仏壇があれば十分です。

春秋のお彼岸やお盆のときにご先祖の御霊が戻ってくるのはご位牌のあるところで、墓には行かないということです。

墓地や墓石の販売に携わっておられる方々からお叱りを受けるかも知れませんが、わたくしも墓地無用論には賛成です。

しかしすでに墓地を持っておられる方は、それを適切に維持していくのは長男を筆頭に子供たちの大事な仕事であるとも一神会で教えていただいています。

たまに墓参りを定期的に欠かさず実行されて、運がよくなったとかトラブルが解決したという方がおられます。

人それぞれ何か信ずるに値する対象を持たなければ、生きていくのが辛く感じるようなときがありますが、墓参りでそれが得られるならそれもよい手段だと思います。

ただ、気を付けなければならないのは、ご先祖の御霊様に願い事や悩み事を唱えられるのは慎むべきことと思います。

ご先祖の御霊様に負担になることは避けるべきで、事情や身情の願い事は神様にお願いすべきということです。



2008-09-24

八重歯

八重歯とは、上顎の正中(真ん中)から3番目の永久歯のことで、通常犬歯ともいいますが、生えるスペースが狭くて外側にはみ出したものをとくに「八重歯」というようです。

八重歯になる医学的な理由はまたインターネット等で調べてみて下さい。

一神会では、八重歯は「飛び出し因縁」と教えていただいています。

お恥ずかしい話ですが、わたくしは八重歯です。

長男なのに実家を出て、親と別に暮らしてきました。

飛び出し因縁通りの結果になっています。

親と別居している長男は、すべて八重歯で飛び出し因縁かといえばそうではないと思います。仕事の都合で転勤等、やむを得ず親と一緒に暮らせない人はそうとはいえからです。

でも、わたくしのような自営業で転勤の心配はないのに、親と離れて暮らしているのはこの因縁が“発動”したということだと思っています。

30年以上も前のことですが、結婚するなら親と同居してくれる女性を望んで探していたときもありましたが、結局、八重歯のあるわたくしにはそのような人とは縁が生まれませんでした。

その頃は、まだ一神会に付いていませんでしたので、八重歯の意味は知りませんでしたから、わたくしがいつか家を出る(飛び出す)ことになっても、いつか両親と一緒に住めるときが来ると安易に考えていました。

しかし、いまはそれが甘い幻想であったことを知りました。

長男に限らず、また女性であっても八重歯はよくありません。

女性は結婚して、嫁ぎ先の家を飛び出したくなる事情が発生するからです。

たまに八重歯の歌手をチャーミング?という人がいますが、人相学上、また運命学上はよくないことですから、対処療法ですが歯科矯正をしたほうがいいのかも知れません。

運命学では、口の中(口腔)は家庭をみるところです。

たとえば、歯並びがよくないのは家庭がガタガタしているときに生まれた人で、運命運勢上もガタガタすることが多いというようにみます。

四柱推命や紫微斗数の鑑定で、わたくしが対面鑑定にこだわる理由のひとつがそうした人相も拝見できるからです。



2008-09-26

顔付き

この前のブログで八重歯について書かせていただきました。

ひとつだけ言い忘れていましたが、犬歯は自分自身をあらわします。だからここが八重歯だと(自分が)飛び出し因縁というわけです。

さて、きょうも人相の話ですが、作家で女性実業家でもあった宇野千代さんの著書「幸福の法則 一日一言」に次のようなことが載っていました。

『顔立ち、顔の造作はね、これは、もう生まれつきのもので、変えようもありません。しかし、顔付きというのは、これは、自分で作るものなのです。心の持ち方ひとつで変わるものなのです。』

顔付きというのは、広い意味で人相のことになると思います。

穏やかな顔付き、きつい顔付き、明るい顔付き、陰気な顔付き、・・・といろいろありますが、顔は心の反映ともいうことができます。

女性の方には失礼になるかも知れませんが、美人の人にきつい顔付きの人が多いうように思うのですが、わたくしだけが感じていることでしょうか？

たまに東京の銀座や六本木、原宿を歩いているとそのような人とすれ違うことがあります。

いま流行の化粧法がそのように感じさせているのかも知れません。

逆にそれほど美人とは思わない人で、何か温かみを感じさせるような顔付きの方もおられます。

女性の美への憧れや追求は、男性にはなかなか理解し難いところもありますが、でも綺麗になりたいという気持ちは大切なことです。

とくに女性は年老いてから、実際の年齢より十歳くらい若く見える方もおられますので、何か美容と健康によいことを続けておられる賜物だと感服致します。

因みに、「真・善・美」は不滅で、あの世に持ち越し可能です。

ですから、たとえば美容整形までして美しくなった人は、その努力は報われて、来世、生まれ変

わったときには美人として生まれます。

できれば、美だけでなく“善”にも努力して、心の美人にもなっていたきたいと思います。

多くの女性の方の鑑定をさせていただいていますと、実にいろいろな“顔付き”の方とお会いできてよい人相の勉強にもなります。

その顔付きで一番大切なところといえば、やはり“目(眼)”だと思います。

目は心の窓ともいいますので、綺麗で澄んだ目の人は心もそのような人だと思います。

また、よい目の人はいまは逆境にあっても、必ずよくなる人であります。

たまに、アイシャドウを付けた方もおられますが、薄くても人相上よろしくありません。

とくに脛(まぶた)に付けるのは避けたほうが無難です。

「脛は家庭」をあらわし、そこに陰影を付けると、「暗くなる」ということを暗示します。

それから、おでこが髪の毛で隠れている方がおられます。

小さい女の子なら可愛いとも思いますが、大人の女性がそれではよろしくありません。

とくに眉毛が髪の毛で隠れているのは、眉毛は親とみますので親不孝の人となります。

人相の勉強は、手軽に鑑定できますので役に立つ占いのひとつです。



2008-09-29

幸と福

安岡正篤先生の「安岡正篤一日一言」(致知出版社)に次のようなことが載っていました。

『「さいわい」にも幸と福と二字ある。学問的にいうと、「幸」というのは幸いの原因が自分の中にある、偶然的な、他より与えられたにすぎない幸いを幸という。たまたまいい家庭に生まれたとか、思いがけなくうまいめぐり合わせにぶつかったとかいう、これは幸。これは当てにならない。

そうではなくて原因を自己の中に有する、即ち自分の苦心、自分の努力によってから得たる幸いを「福」という。福という字がそれをよく表しておる。示偏(しめすへん)というのは神さまのことだ。示というのは上から光がさしている、神の光、叡智の光を表す。旁(つくり)は「収穫を積み重ねた」という文字だ。農家でいうならば俵を積み上げるという文字。神の前に蓄積されたるものが「福」である。』

わたくしたちは、幸福という文字をよく用いますが、幸福にはふたつの意味があるのをはじめて知りました。

しかし、幸と福の意味が違って、どちらもわたくしたちには有り難いものです。

ところで、安岡先生は、幸は当てにならないとおっしゃっていますが、わたくしは幸は神様からのご褒美ではないかと思っています。

偶然はないのがこの世で、すべて必然の世界です。

「蒔かぬ種は生えぬ」、「因縁因果の法則」が厳然として存在するのがこの世です。

ですから、愛情の厚い両親の下に生まれたのも、お金持ちの家に生まれたのも、あるいはそうではないのも、偶然ではないと思います。

以前のブログで、真・善・美は不滅であり、美容整形までして美しくなりたいと努力した女性は、次の世、生まれ変わったときは美人に生まれると申しあげました。

同じように、愛情の厚い子供思いの両親の下に生まれたのは、前生、自分が親孝行だったからです。

金持ちの家に生まれたのも、前生、世のため人のために施しをいっぱいしたからだだと思います。

このように考えると、幸も自分の努力の賜物と考えられなくはありませんが、わたくしはあえてそれは神様からのご褒美だと思いたいです。

ですからご褒美はご褒美で有り難く受け取って、それに甘んじることなく積福のための努力をすることが大切で、そうすれば今度はさらに素敵なお褒美を神様から頂戴できると思います。



2008-10-01

理の判断

きょうは10月1日、一神会の第一御縁日。

早朝、新神戸より新幹線で東京へ参りました。

東京には、浜松町にわたくしの会社の事務所がありますので、約1時間ほどそこで時間調整し、松戸の一神会本部へ参りました。

わたくしは現在、土、日が教室や鑑定でほとんど塞がっていますので、平日にお参りができるのは有り難いことです。

さて、先週、わたくしの姪が突然入院しました。

座骨神経痛か椎間板ヘルニアか診断結果は分かりませんが、あまりの激痛で救急車を呼んで入院したということです。

早速、推命と紫微斗数で姪の運気をみてみると、かなりよくありません。四柱推命では、去年と今年のお盆の頃まで、元辰殺運(第四級)、紫微斗数では今年戊子は自化忌と太歳化忌、また子宮には擎羊もあり、場合によれば手術・・・、ということも考えられなくはありません。

気を付けなければならないのは、本人には嘘でもよいから良い運氣だから心配いらぬ・・・、と

いっておくのが大切です。

姪はまだ今年 26 歳の未婚。腰にメスを入れるようなことがあっては大変です。

一神会へ着くと、早速、いつもお世話になっている田畑先生に理の判断で姪の腰の身情(病気や怪我のこと)の原因についてお尋ねしました。

ここでは、姪とその家族のプライバシーに関わることなので、原因については残念ながら申し上げられませんが、少しだけ触れると、腰は「縁」に関するところをみるところです。

女性が嫁ぐことを「興入れ(こしいれ)」といいます。夫婦の縁に限らず、あらゆる人様とのご縁についてみるところです。

縁は、「円縁つなぎの神様」のご守護であり、腰を悪くするというの一言でいえば円縁つなぎの理に適っていないことをしたためです。

その端的な例は、ギックリ腰です。

姪はギックリ腰ではありませんが、ギックリ腰になるのはそれなりの理由があります。わたくしも過去二回ほど経験し、大変難儀をしたことがあります。

皆が皆とはいませんが、ギックリ腰の原因は、妻または夫に不足の念を抱いたことだと教えていただいています。

つまり、配偶者に対する不足不平の念がギックリ腰の原因ということです。

いかがですか？ 心当たりのある方はおられないでしょうか？

田畑先生に理の判断をしていただいて、ふたつ思い当たる原因がありました。

「そんなことも原因とは・・・」と聞いて驚くとともに、姪自身が悪いのではないのに姪が一身に身情を引き受けているのが哀れでなりませんでした。

一般的に、わたくしたちは運気がよくない時期に病気や怪我をしやすいです。

四柱推命や紫微斗数である程度それを事前に察知して気を付けることはできますが、災難は予想外のうちにやってくることもあります。

やはり常日頃の心掛け、行いが大切だと思います。

そして、占いでは残念ながら病気の原因は分かりません。

霊的な占いをされている方は、霊能で病気の原因をみる方もおられるかも知れませんが、ツールとしての占いでは原因までは分からないのが普通です。

ですから神理の教えを勉強して、どうしてそのような身情(病気、怪我)を招くに至ったのかを悟ることができれば、お詫びもできるし願掛けもできます。

大難を小難に、小難を無難に済ますことも可能です。

占いの勉強はしなくとも、神理の勉強はぜったいにしたほうが得です。

不思議な方がはじめた不思議なところ。そこが一神会。

だから不思議なことが起こるのです。

『ふしぎなりを さとりたもののまわりに ふしぎあらわす』

(不思議な理を悟りた者の周りに不思議現す)

自由宗教一神会 御神言



2008-10-03

和顔愛語

わたくしたち人間は皆亡くなると閻魔大王様の前で裁きを受けるということです。

閻魔大王様は大変几帳面な神様で、わたくしたち人間の一生の善行と悪行のプラスマイナスの点数を厳格に点けておられるということです。

そしてひとり一人のこの世の成績表を閻魔様から授与され、いずれの階層の霊界へ行くかが決定されるということです。

裁きといっても生きている間、よいことをたくさんしている人は心配いりません。

点数のいい優秀な人には閻魔様は大変優しく接していただけますが、よくない成績の人には厳しい態度で臨まれます。

まるで子供の躾や教育に厳しいお母さんのようです。

この世に生きている間に、ちょっとでもよいことをし続ける、それも意識して行うことが大切で、そうすれば最後の裁きを受けるときも安心していられるというものです。

よいことをするのは大変で難しい・・・、というご相談とも言い訳ともとれるお言葉をお聞きすることがあります。

世のため人のために貢献するといいますが、できないようなことをする必要はありません。自分の身の丈にあったできることを心掛けて行うことだと思います。

子育てで忙しい方や親の介護で大変な方などは、時間を割いてなにかボランティアやご奉仕といってもそんなにできるものではありません。

お経に出てくる「和顔愛語(わけんあいご)」でもいいのです。

会う人に穏やかで優しい態度表情で接し、言葉遣いも思いやりのある話し方ができればそれだけでよいことをしていることになります。

常に自然に和顔愛語ができている人はそれだけでも相当徳のあるお人だと思いますが、わたくしを含め凡人である普通の人には、意識してでも続けることは至難です。

でも、ちょっとでもしないよりはましです。三日坊主で終わっても、また思い直してやりましょう。

きょうから和顔愛語の実践です。

まず鏡の前に向かって、微笑みの練習からはじめてはいかがですか？



2008-10-09

心の病を治す第一歩

かなり以前の、ネットワーク『地球村』の地球村通信(会員情報誌)に掲載された記事に、次のようなお話が紹介されていました。

『インドのあるお話です。「頭の中でハエが3匹飛び回り、うるさくてたまらない。ハエを取ってほしい」と訴える主人を、奥さんは何人もの精神科医のところ連れて行きましたが、誰も相手にしてくれませんでした。そこで、精神の師である高名なラジャーニー師のところへ連れて行きました。

師は彼の訴えを聞き、彼の頭に耳を当てて、「うん、確かに音が聞こえる。わたしが取ってあげるから、しばらくそこで横になっていてください」と言いました。

待っている彼が眠ってしまった間に、師は必死になって3匹のハエを生け捕りにし、ビンに入れて持って帰り、彼を起こしました。「あなたが寝ている間に、ハエを取っておきました。大変でしたが何とか取れました。これがそのハエです」と差し出しました。彼は、「本当だ。もう音が聞こえない。やっぱり、俺の言ったとおりだったろう！頭の中にいたんだよ」と、奥さんや周りの人に嬉しそうに話し、それ以来完全に治って、すっかり元気になりました。』

わたくしはこれを読んで、大変、心に残る内容だったのでコピーしておきました。

わたくしが鑑定をさせていただいた人の中には、ご本人やご家族の方が精神的な疾患で苦しんでおられた方がこれまでに何人かおられました。

自閉症の方をはじめ痴呆症の方などの介護やお世話は、経験した人でないとその苦労は分からないと思います。

寝たきりの人の介護も大変ですが、身体は元気なのに精神的なケアが必要な人はもっと大変で、ご家族の方の心身の労苦は並大抵ではありません。

精神的な疾患の人を直すのは現代医学でも、運命学でも、神学でももっとも難しいとされているからです。

そう考えていたときに、上記のインドの話を読み、本当に苦しんで困っている人を受けとめるのは覚悟というか真の愛情がないとできないことだと痛感しました。

現実の世界から遊離した心の人や被害妄想にとらわれている人、あるいはそこまでいなくても、ちょっと普通の神経ではないと思われる人が最近増えてきているように思います。

ひとりで精神病、精神疾患と言っても症状はさまざまです。

まずはそうした人の話を、「うん、うん」と頷きながら、真剣に聞いてあげるのが受けとめることの第一歩です。

聞いてあげるだけでそうした心の病を持っている方は、安らぎを覚えるものと思います。でも聞く方は大変な根気が必要なことは言うまでもありません。

医師や宗教家、あるいは占い師がそうした話をどれだけ真剣に受けとめて聞いてあげても、残念ながらその人の病はよくはなりません。根本的な解決(治療)は、家族の人がどれだけ親身にな

って自分のことのように思っただけで世話できるかにかかっています。

その厳しい現実を受けとめる人が家族(できれば親)にいたときに、人智を超えたはたらきが後押しをしてくれると思います。

一神会の先生が以前おっしゃった言葉がいまの脳裏に焼き付いています。

「家族の中で頭のおかしい人がいれば、その人が家の(よくない)因縁を一身に背負っている。」

「見捨てるようなことをしてはダメですよ。」

精神疾患は、心の病、頭のおかしい人です。

精神分裂病というしっかりした病名が付くような状態になれば、ほとんど完治するのは困難だと言われています。

心の病もほっておいたらだんだんと重くなりますので、まだ軽いうちに直してあげるための努力と根気が親を中心にご家族にあるかが問われています。

その第一歩は、いわば家系の因縁の犠牲になった人をどこまで見捨てず、受けとめてあげられるかにかかっているといえます。



2008-10-10

食いつなぎ

株価の急落、急激な円高で日本経済のみならず世界経済の先行きに不安感が色濃く漂っています。

去年より「食」に関して賞味期限の偽装問題や、輸入食品の残留農薬や汚染米の問題など、食品の安全について連日報道で声高に取り上げられています。

わたくしは、去年、「食は職なり」で、「2008年は職を失うような人が増える」と理の判断で申し上げたことがあります。現実味を帯びてきました。

日本経済もバブルの後遺症からやっと抜け出し、ここしばらく好況感にひたっていましたが、どうもそれは昨年で終止符を打ったようです。

世界中に失業者が大量に出るような事態が、これから来年にかけて起こるような気配です。

わたくしの会社でも、すでにやむなく従業員を解雇せざるを得ない状況になった営業所があります。

役員に名を連ねるわたくしもまことに申し訳ないことと心を痛めています。

一神会でも、「食いつなぎ」の大切さを教えていただいています。

経営者は従業員とその家族が喰っていけるように最善の努力をするのが一番大切な責務です。

それが「食いつなぎ」ということで、「上げ下げ飲み食い入る理」に適った行いとなり、食べ物に一生困らないような人となり、また身分も引き上げていただけます。

いくら退職金など金銭的な面での優遇を講じて、従業員の職を奪うことには違いありません。

わが身の不徳を神様にお詫びし、残された従業員の食いつなぎに微力ながら頑張らねばと思っ
ているところです。

四柱推命でも紫微斗数でも経営者の資質に乏しいわたくしは、すでに実弟に社長職
を譲っていますが、来年は占術関係の仕事の分量を減らして本業の仕事を主にする時期かと思
っています。

余談ですが、紫微斗数で現在ご指導をいただいている東京の村野大衡先生に、わたくしは占
術関係の仕事と経営の仕事の両方をする(したほうがよい)と言われました。

この言葉にいまは勇気づけられています。



2008-10-14

神棚をお祀りする

わたくしは神棚をお祀りすることを鑑定相談に来られた方によくお奨めしています。

昔は、何処の家庭や会社でも神棚があったように思います。

立派な神棚はなくても、台所に荒神様をお祀りしていたお家は多いと思います。

鑑定相談に来られた人に、「お家に神棚はありますか？」とお尋ねすると、だいたい10人中7
人くらいはありませぬというお答えです。

多いのは仏壇はありますが、神棚はありませぬという回答です。

神棚をお祀りしているのは、現代の家庭ではおおよそですが3割というところでしょうか。

なぜ、神棚をお祀りするのかわか？

どうして神棚が必要なかわか？

みなさまは考えたことがおありでしょうか……。

一神会で教わったことですが、古代、神代の昔、いまから何千年前の話ですが、神様は人間
のお姿をされ、人間と一緒に暮らしておられたということです。

わたくしたち人間は、文字も、田んぼや畑で農作物を作ることも、織機で着物を作ることも、人間
が生きていくために必要なことはみな神様から教えていただきました。

そしてもっとも大切なことは、

“神様は自ら人間に神様に対する礼儀作法(祭式)を教えられた”

ということです。

もう一度、繰り返しますと、神様は人間の姿になって神様に対する礼儀作法である祭式、つまり
神様のお祀りの仕方を人間に教えられたのです。

これは大変重要なことです。

後世、人間が人間の考えで神様をお祀りしたのではありません。

わたくしたち人間が勝手にはじめたことなら、やってもやらなくてもいいかも知れませんが、神様

御自ら神様をこのようにお祀りしなさい・・・、とわざわざ教えられたのですから、わたくしたち人間はそれをしなければならない務め(義務)があるわけです。

たまに神社にお参りしたときは、何か心が洗われ清められる経験をされた方は多いと思います。自宅に神棚があれば、毎日、そのような経験もすることは可能です。

そしてさらに一歩進んで、ただお神様を祀りするだけでなく、神様の教えを学びたいという気持ちが自然と起こるようになってくれば神の子としての自覚が芽生えてきた印です。

宗教といえば、毛嫌いする人とか、自分は無神論者であると吹聴する人もいますがとても情けないことです。

神代の昔、神様が人間の姿になって教えられたことが、神理の教えです。

この世の法則であり、神理は真理となっていまに伝えられています。

その一部が宗教というジャンルでいまのわたくしたちに伝えられているわけです。

いまは、宗教を求めるのではなく神理を求める時代ともいわれます。

そのまず第一歩が、神棚をお祀りすることだと思います。

余談ですが、わたくしの携帯電話の待ち受け画面は、自宅の神棚です。

携帯電話がお守りとしての役目も果たしてくれています。



2008-10-15

仲良く暮らす種

一神会では、最近、「助け合って、仲良く暮らせ」という合い言葉を、ご縁日のご講話のとき皆で唱和しています。

一神会会長様より次のようなお話も以前お伺いしています。

仲良く暮らす種

大勢の人が集まる良いことに

参加することは 大勢で暮らす種となる

そのときに手伝ったり 奉仕をしたり

良いことをすれば 家の中が良くなる

そのとき悪口をいえば 大勢に悪口をいわれる人となる

新年会などに出席することも修行であって

人々の中に入って 仲良く通るには

気をつかわねばならぬ

他の人に気をつかわすようでは 運の良い人にはなれない

ああして貰いたい こうして貰いたい

貰いたいばかりでは 乞食になる
ああしてやりたい こうしてやりたい
やりたいことのできる人は 大名である
よく悟ってください
家の中でも 会社の中でも 皆仲良く暮らしたかったら
大勢集まる所で 良いことをしておくことが肝心です

恥ずかしながら、わたくしはどうも昔より友達も少ないですし、サラリーマン時代でも付き合いは良くないほうであったと思います。

大勢でいるよりひとりで行動するのが好きな性格で、人に合わせられない自分勝手に慢心したところがあると最近には痛感しています(反省)。

まさに四柱推命や紫微斗数でみた星の象意通りです。

仕事や適職は、そうした自分の性質に合った職種を選んだほうがよいと思いますが、それ以外には努めて大勢いるところに顔を出して、何かお手伝いするようなことをしなければならないと思っています。

たとえば地域活動に積極的に参加するなどはもっとも身近で良いことと思います。また、上記のお話にもありました新年会はじめいろいろな会合に参加するのも良いことです。

これが一種の修行であって、因縁解消、運命好転のひとつの手段だと思っています。

来年、二月、三月は二度目の修行を一神会で受講する予定です。

神様のお役に立ちたい、あるいは人助けに立ち上がりたいという熱心な会員信徒の人たちと大勢で修行をさせていただきます。

受講する前は、修行は辛くて苦しいものと思っていましたが、まったく正反対でした。

一神会の修行は、楽しく、心が晴れ晴れと爽やかになります。

本当の修行は、楽しいものだとあらためて知ることができました。



2008-10-18

三つの使い方

わたくしたちは、毎日、いろいろなことに気を使(遣)っています。

一日中、気を使わないことはありません。

主婦であれば、今晚のおかずは何にしようかしら？ とか、子供が小さいときは目が離せないの
で、四六時中、気を使うことになります。

ご主人も職場の人間関係や得意先との良好な維持発展に気を使います。

人に気を使う人は好かれます。
反対に自分のために気を使う人は嫌われます。
自分の家や自分の会社のことばかり気を使っていては、いつかは自然淘汰されるでしょう。
気を使うのが苦手な人は、できるだけ身体を使って下さい。
腰が軽く、フットワークの良い人も好かれます。
逆に、腰が重く、フットワークの良くない人は嫌われます。
これも自分のために身体を使うのではなく、仕事でも余暇でもいいから人様のためにできるだけ身体を使いましょう。

もうひとつ、もっと大事な使い方をしなければならないものがあります。
それは、お金の使い方です。
この使い方は、先の気の使い方や身体の使い方より難しいです。
お金持ちの人でも、お金を使わなければ宝の持ち腐れとなり、お金の無い人と同じになります。
また間違った使い方をすれば身の破滅を招くようなこともありますね。贈収賄などはそのよい例です。
お金の使い方は、運命運勢を良くも悪くもします。
お金は有り難くて恐ろしい神通力の備わったものだからです。

気の使い方、身体の使い方、お金の使い方、この三つの使い方を良くすれば人間関係も良くなり、引いては運命運勢の改善に繋がります。



2008-10-19

煩惱

人間は108個の煩惱があるといわれていますが、一部の聖人君子の人を除いて、生涯付き合わねばならないのがこの煩惱ではないでしょうか。

考えようによっては、わたくしたちは煩惱があるから生きているといえなくはありません。

この世は、「苦の世界」であるとお釈迦様は説かれています。
これは、幸(四あわ)せは、「苦(九)」を[十(と)]おることによってもたらされるということです。
「十」は先が四つに分かれていますね。
クリスチャンの方は、胸で十字をお祈りのときに切りますが、この意味は大変深いものがあります。
でも、毎日毎日が苦しみの世界で、煩惱に振り回されるというのも悲しいことです。
人間はそんなに強い人は多くはありません。
何とか、日々平穏に暮らしたいというのは、至極当然の願いです。
では、どのようにしていけばいいのでしょうか。

わたくしは、修行や瞑想などで煩惱を抑えるのもよいと思いますが、それがすんなりできる人もそんなに多くはないと思います。

では、煩惱に蝕まれないようにするには、どのように生きていけばよいのでしょうか？

わたくしは、天から与えられたやるべきことを一生懸命することだと思います。

使命、天命を果たすために、努力し続けることだと思います。

そうすれば、煩惱が無くなることはなくても、それにとらわれることがなくなります。

要するに、意識転換といいますか、心のベクトルの方向を変えるのです。

もし、天から与えられた為すべきことが何か分からない方は、いま目の前にある、しなければならぬことを精一杯することです。

そうすれば、遠からず、天から与えられた為すべきことに会おうでしょう。

あるいは、信頼できる占い師に鑑定していただくのもよいと思います。

今生のあなたが為すべきことは、四柱推命や紫微斗数ではっきりと星が明示しています。



2008-10-28

行くこと運ぶことが 信仰であり 進行であり 神行である

わたくしが日頃お世話になっている一神会は、千葉の松戸にご本部があり、あとは大阪や仙台などに連絡所(個人の自宅)があるだけです。

組織としては中央集権的です。

どこかの宗教団体のような拡大主義ではありません。

会員信徒さんもまじめで良い人しかありませんし、信者の勧誘などは一切ありません。

お参りや修行、またご奉仕に行きたい人だけが行くところです。

わたくしはそれでよいと思っています。

一神会の会長様は、神ごとは強制してはいけなないと常々おっしゃっていますので、わたくしも、「良いところがある・・・、不思議なところがある・・・」と、一神会のことをご縁のある方にお奨めしていますが、親しい生徒さんにも一度も強制したことはありません。

関西はじめ遠方から行くとなると、交通費もかかりますしなかなか行くのは大変かと思います。

できれば一度だけでも、千葉松戸にあるご本部へ足を運ばれることを、気を使ってお奨めしています。

一神会の御神言に

”ここまで きたれや かみのこよ

はやく たすけを いそぐので”

とあります。

この御神言によると、「きたれや」と言っておられるのですから、家には助かる者も助かりません。神様は早く来なさいとお呼びになっておられます。

いつか暇をみつけて行くとか、お金に余裕ができたら行くとか、そんなことを言っている人はいつまで経っても行けないでしょう。

本当に行きたい人は、願掛けして、

「神様、どうか一神会へ行かせて下さい」

と、直接、神様に願うことをされています。

そういう人は、不思議なおはたらきをいただいて参拝が叶うことが多いようです。

一神会では、

『行くこと運ぶことが 信仰であり 進行であり 神行である』

と教えていただいています。そして、

『運の悪い人でも悩んでいる人でも、運ぶことをすれば良くなります。』

お足をひっこめていては運ぶとは申しません。おあし(お足=お金)

を出すことを運ぶというのであります。そうすれば金運が良くなって

運が良くなったと申します。』

と会長様はおっしゃっておられます。

書籍「ふしぎな記録」や「ソロンの予言書」を読まれるだけでも素晴らしいことですが、さらに一歩進んで、その著者である浅見会長様に、そして親神様に会いに行くことを、是非、発願されてはいかがでしょうか。



2008-10-29

明るい家庭

結婚式のとき、よく新郎新婦にどのような家庭を築いていきたいですか？ と尋ねると「二人で力を合わせて明るい家庭を・・・」と答える方が多いと思います。

“明るい” というのは大変素晴らしいことですね。

明るいところには、人が集まってきます。

多くの人が訪ねてくる家は活気があり、そのようなところに行けば元気をもらえるような感じになって、余計に人が集まってきます。

「火の消えたような家」といいますが、陰気で淋しい感じがする家は人は遠ざかります。

明るい家庭は、基本は夫婦が力を合わせて築きあげていくものです。

一神会では、明るい人、明るい家庭、明るい世界はつくらねば出来ないと教えていただいています。

まず、大事なことは、「明」という漢字に示されています。

「明」は、月日の教え、陰陽の教えであり、「順序の理」の教えそのものです。

「一」があって、次に「二」がある。

一は、陰であり、男であり、夫であり、左の理です。

二は、陽であり、女であり、妻であり、右の理です。

男は男、女は女、夫は夫、妻は妻としてのそれぞれの立場、役割があります。

その立場、役割をそれぞれが果たして、夫婦仲良く助け合って暮らせば、家庭は自ずと明るくなり、「一＋二＝三」で、「三」はお産の「さん」、子供が授かるというのが神理です。

もうひとつ大切なことは、わたくしたちは、「夜が明けた」と言いますね。

明るいということは、「明ける」ということにもなります。

あければ(明ければ)、明るくなります。

あけることを知らない人は絶対に明るくできません。

「あけること」、「あげること」、「与えること」をした人が明るくなり、そのような夫婦の家庭は明るい家庭となるのです。

家の玄関を常にあけて(オープンにして)、友人知人や近所の人たちがいつもよく集まってくる家は明るい家庭です。

困っている人や悲しんでいる人の力になってあげたりする人は明るい家庭の人です。

人様の長所、美点を見つけて、誉めてあげることのできる人は明るい家庭の人です。

人様に惜しみなく物を与えたり、訪ねてきた人に昼時になったので、お昼ご飯でも一緒にいかがですかと、昼食を差しあげる人は明るい家庭の人です。

金銀財宝は永久にひかり輝いているので魅力があります。

明るい人は金銀財宝のように人様に好かれることでしょう。



2008-11-01

お母さんの病

昨日、東京で宿泊し、朝一番に一神会へ参拝。

すぐに大阪へ戻って、13時から定例の四柱推命の教室講義を行いました。

毎回、生徒さんから実在の方の命式のご提案がありますが、きょうはとくにお気の毒なご夫婦の話をお聞きました。

ご主人のお母さんが統合失調症で、あろうことか孫の命を奪えと天からの命令が下っていると口走り、お嫁さんは人工授精までして授かったわが子に万一のことがあれば大変なので子供を連れて実家に帰られ、ご主人が心の病におかされているお母さん(実母)と一緒に暮らしているという哀れなご夫婦の実在の命式を出されました。

命式の内容については触れませんが、一家の中で母親や女の人がおかしくなるのは土地の争いや、土地に起因する災いであることが多いです。

土地は女の理です。

それともうひとつ考えられるのは、まことに失礼なことをいうようですが、強欲で取り込み主義の人、貰うばかりで出すことを知らない人は、智恵も出さなくなり、頭がおかしくなるようなことが起きます。

ほかにも原因があり、複合的な要素が絡んでいるかも知れません。

いずれにしても精神的な病はもっとも厄介な身情問題です。

身情問題の前には必ず事情問題があったはずです。

その原因を突き止めて、お詫びの行いをしなければ絶対良くなりませんし、助かりません。

ご主人はお母さんの長男として、精一杯のことをしてあげていただきたいと思います。

できればお嫁さんも、お子様が生まれたばかりで大変だとは思いますが、嫁いだ以上、姑さんが母親になりますので、ご主人と一緒にお詫びの行いをすれば良くなる道が開けます。

脅かすつもりはありませんが、お母さんが良くならないで、もしそのままお母さんが亡くなられたとすれば、今度はそのお嫁さんに同じような症状が現れることが多いです。

頑張ってくださいたいと思います。



2008-11-04

“せいしん力”

四柱命式の分析で、もっとも大切なことは日干の強さをみることにあります。

日干とは、われ自身、自分自身を司るところであり、精神気力の強さをみるところであります。

いまは男性でも女性でも、日干の強さは中以上の強さが必要な時代となってきました。

将来が不透明で、混迷から混乱の時代へと社会が突入する時代、精神力を司る日干はいままで以上に大切なものとなってきました。

ところで、日本語では、「せいしん力」を、普通、精神力と記します。

一神会会長様より、この「せいしん力」について、次のような貴いお話が以前にございましたので、それをきょうは少しご紹介させていただきます。

「せいしん力」と言ふのは 神が人間に与えた宝である

正心力(せいしんりょく)・・・正しい心の力 間違ひはあらためる力

生進力(せいしんりょく)・・・生きよう生きようと進む力

清新力(せいしんりょく)・・・清らかに新たにしようとする力

誠心力(せいしんりょく)・・・他(ひと)の為に良いことをよろこんでする力

せいしん力は宝である

あなたは宝の持主である 出してみよ！ 使ってみよ！

宝をもってゐても出して使わねば 何もならないじゃないか

金をもってゐても出して使わねば 金無しと同じである

神が人間に与えた宝は 出して使ってもへらないはずである

・さあ出して使え！ 正心力！

それが神の子の証拠である

正心力と言ふ宝を出して使えば 良くなる善人となる

・さあ出して使え！ 生進力！

それが神の子の証拠である

生進力と言ふ宝を出して使えば 元気になる働き者となる

・さあ出して使え！ 清新力！

それが神の子の証拠である

清新力と言ふ宝を出して使えば 美しくなる楽しくなる

・さあ出して使え！ 誠心力！

それが神の子の証拠である

誠心力と言ふ宝を出して使えば 仲良くなる助け合ひとなる

神が人間に与えた宝もの “せいしん力”

あなたも宝の持主である

--- 以下、省略させていただきます ---

いかがでしょうか？

単に、“精神力”というだけでは、氣力が強い、弱いということに終わってしまいがちですが、

“せいしん力”と書けば、四つの神様から授かった力があるということをお分かりいただけたと思います。

この力は誰にも備わっています。

四柱命式で官殺が太過したり、あるいは食傷が太過して、どうみても日干がはなはだ弱い命式の人でも、この神様から授かった宝ものは平等に与えられています。

気付いていないだけです。

知らないだけです。

“潜在能力”として、どなたにも与えられています。
あなたもわたしも神様によって与えられた神の子。
分け隔てなく、この宝ものは与えられています！

でも、怠けている人や出し惜しみをしている人には、この宝ものは埋もれたままで手にすることはできません。

努力をし続けている人は、この宝ものを掘り当てることができます。

とくに、いま自分の為すべきことを一所懸命に努力している人は、間違いなくこの宝ものを手にすることができるでしょう。

潜在能力が顕在化した人こそ、その道の達人となり、真に成功した人といえるのではないのでしょうか。



2008-11-09

運命を拓く言葉

人物とは言葉である。
日頃どういう言葉を口にしてしているか。
どういう言葉で人生をとらえ、世界を観ているか。
その言葉の量と質が人物を決定し、
それにふさわしい運命を招来する。
運命を拓く言葉の重さを知らなければならない。

「小さな人生論」 藤尾秀昭 著より

言葉は大事ですね。
言葉には力(エネルギー)があります。
“言霊”ですね。

人を励ます言葉や活力を与えてくれる言葉、運命を良くするような言葉、魂が喜ぶような言葉などは、何ものにも代え難い心の清涼剤となったり栄養剤となったりします。

クリスチャンの人が、毎日曜に教会へ足を運んで、賛美歌を歌い、神に祈りを捧げ、神父様より神様のお話を伺うというのは、良き言葉を聞いて、自分の魂を清め栄養を補給しているようなものです。

定期的に教会などの良いところに足を運んで、神様のお話やお釈迦様のお話などを拝聴し修養に努めることは、人格形成のみならず運命を良くするためにはとても大切なことです。

以前のブログにも書きましたが、「信仰は進行」です。

「運(うん)」とは、「はこぶ」ということ。

良きところ、良き人たちが集まる場所で、神様のお話が聴けるところ、神理の教えが学べるところへ自ら足を運ぶことは、そのようなところは人助けをするところですから、そこに足を運ぶということは、自らも人助けをした理になります。

良きところに進んでいく(進行)は、「運ぶ」ということになり、因縁を切って運命を良くする第一歩！

繰り返しになりますが、進行は信仰ということですよ。



2008-11-11

因縁自覚

8月4日からはじめましたこの「四柱推命は神様の黙示録」のブログも、本日でちょうど100回目となりました。

100日間続けて書くことを身をもって体験し、なかなか大変だったなあというのが正直な感想です。

人によれば、1年以上も毎日ブログを書いたり、メルマガを発行されたりしている方がありますが、その根気と熱意に敬服致します。

本ブログのタイトルが「四柱推命は・・・」と唱っているのに、四柱推命の話が少し少なかったので申し訳ないと感じています。

四柱推命の話はどうしても専門的になってきますので、テーマ選定は苦慮しました。

その点、神理の話は、どなた様でも話せば分かると思います。

四柱推命より大切なお話ですので、テーマの数も多くなってしまいました。

本日で、当初の目標であった100日間連続して書かせていただくことは達成しましたので、あとは1週間に1回か2回くらいのペースで続けて書きたいと思っています。

これからもどうぞよろしくお付き合いの程お願い致します。

さて本日は、自分で言うのも何ですが、100回目の記念する日ですので、とっておきのお話をさせていただきます。

まずは、わたくしが平素ご指導いただいています自由宗教一神会の会長様のご講話を謹んで掲載させていただきます。

因縁自覚

助けてください 助けてくださいと言ってお願いしても
自分の因縁を知らない者が助かりまして
助かったのか 偶然に良くなったのか
自然に良くなったのだらうと 自分に
都合のよい考え方をして 神様のおかげであることを
忘れてしまうので 助かったことが無駄になってしまう
神の方から言えば 助けても無駄であったということに
なるので 助けるにも助け方があるのですよ

人間が自分の因縁を悟っていれば
本当は もう駄目になってしまうところ
或いは 目茶苦茶になってしまうところ
或いは不孝(原文のまま)になってしまうところを
助けていただいたというように悟れまして
感謝もお礼も出来ますが 自分の因縁を
知らない 因縁自覚が出来ていない人は
助かって も 助けても 助けても
わからないから やがて落ちてしまう
つまり人生の落伍者になってしまう
本当に因縁自覚は必要です

いまの世の中に生きているものは とくに人間は
皆々良い因縁の人なぞ 一人もいない
運が良い人がいても その人も因縁は
良くないわけだ なぜだろう
いま生きている人間全部
おわびとお礼を知らなければ
今度生まれ変わったときに 人間になれるか
何うか 危ういものだ
因縁自覚のない者には
おわびもないし お礼もない

会長

平成一年十一月二十八日

運の良くない人は、皆、因縁が良くない人です。
運を良くしたい、何とか幸せになりたいと思っている方が、占い師のところに行ったり、自ら四柱
推命はじめ占いを勉強されます。

わたくしの場合もそうでした。

でも、残念ながら、四柱推命のどこにも運を良くする方法はひと言も触れられていません。

紫微斗数には、開運法があるようにいままで申し上げたかと思いますが、それとても根本的なものでなくあくまで対処療法に過ぎません。

真の開運は、自力と他力が上手く組み合わさってはじめて達成できるものです。

自力とは、自助努力でこちらのほうは案外皆様されています。

問題は他力のほうです。

他力がはたらかなければ、自力だけでは形に現れないのです。

この世はすべて二象一態、陰陽で成り立っています。

開運も、陰と陽が合わさってこそ現象として実感できます。

陰が他力、陽が自力。

神様のご守護をいただかないと助かったとか、良くなったということが現れてこないと思います。

そのためには、どうすればよいのか??

その方法が上記のお話にはっきりと示されています。

おわび(お詫び)とお礼(感謝)です。

これが、根本的な他力、つまり神様のご守護をいただく方法です。

とくに大事なものは、お詫びです。

神様にお詫びされている方は、ほとんどおられないのではないのでしょうか。

でも、これが究極の開運法です。

お詫びも、口で言っているだけでは駄目です。

「神様、どうかわたしが●●したことをお赦し下さい。申し訳ありませんでした。お詫び致します。」と唱えても、神様は、「分かった」と言われるだけで、「良くしてあげよう」とは言われません。

「神様、わたしが●●したことは本当に申し訳ございませんでした。心よりお詫び申し上げます。」

「そのお詫びのしるしとして、◇◇日間、これこれしかじかの事をさせていただきます。」

あるいは

「お詫びのしるしとして、ここに金□□円をお供えさせていただきます。」というようにお詫びを形に現すことが大事です。

この世は現象世界だからです。

そして、ここで問題となるのは、「●●」の部分です。

自分の過去(前生を含む)のどのような行いの結果が、いま(今生)の不幸不運になって現れたのか、つまり事情身情問題の原因を探るということです。

自らの因縁を知り、因縁自覚をするということです。

そのために神理の勉強をしなければなりません。

神理(真理)に外れた行いが不幸不運の原因、つまり良くない因縁となって魂に引っ付いている

からです。



2008-12-02

波動の法則

昨日は一神会の第一御縁日でした。

早朝の新幹線で千葉松戸にあるご本部に伺い、夕刻に大阪で所用があったため、祭典のみ参加して帰阪しました。

一神会の売店の前で、久しぶりに管長様にお目にかかることができご挨拶をさせていただきました。

ご病気になられてから、いまはなかなか管長様にお目にかかることができないので、とてもラッキーでした。

さて、車中で、船井幸雄先生の最新刊「180度の大激変！」を読みました。

この本には、波動の法則として次の四つがあげられています。

- (1) 同じものは引き合う。
- (2) 違うものは反発し合う。
- (3) 自分が出した波動は自分に返ってくる。
- (4) 劣位の波動はより優位の波動に変遷する(優位の波動は劣位の波動をコントロールする)。

そして、船井先生は、「世の中のことは、すべて波動の法則で説明できる」とおっしゃっています。

(1)と(2)については、とくに説明は要らないと思います。

日常のわたくしたちの付き合い人間関係でも同じことがいえますね。

結婚や離婚もこの(1)と(2)の結果ですね。

(3)については、古今東西の宗教的原則であります「蒔かぬ種は生えない」と同じことです。

また、仏教でいわれる「因果応報」のことでもあります。

分かりやすくいえば、この世では「与えるものが受け取るもの」ということです。

そして、もっとも大事なものは(4)です。

劣位の波動はより優位の波動の影響を受けて進化するということです。

優位の波動とは、聖書などのような真理の書物に触れたり、著名な音楽や芸術品を鑑賞したり、また美しい自然を堪能するというようなことが考えられます。

伊勢神宮などのご神域は、美しい五十鈴川や樹齢何百年というような大木が生い茂る庭園は、とても荘厳な気で満ち溢れているところだと思います。

そのようなところに、たまには足を運んでお参りするのもお奨めです。
また、風水などで優位な波動が出ている土地を見つけたり、人為的によい気の流れに変えたりするのは、具体的にこれを実践する方法のひとつですね。

そして、この著書には書いてありませんでしたが、波動は共鳴するということも忘れてはなりません。

よい人が集まる場所(一神会など)に身を置くことや、そのような人たちと付き合うのは、パワーのある優位な波動の影響を受けることができます。

よく自分より上の人(世俗的な意味ではなく魂のレベルで)と付き合い・・・、といわれるのもそのためだと思います。

自らも努めてよい波動を出すように意識したいと思います。



2008-12-03

御恩返し

日本語のひらがな、カタカナは、「ン」以外は、五つの母音と五つの子音がセットになっています。

あ い う え お(母音)
か き く け こ(子音)
さ し す せ そ ↓
: : : : :

これを読むときは、「あ い う え お」、「かあ きい くら けえ こお」、「さあ しい すう せえ そお」と、読みますね。

かならず、子音は母音にかえります。

母音は、ふつう「ボイン」といいますが、「ボオン」とも読みます。

ボオンが五つで、「ゴオン」であり、子音はすべてこのゴオン(五音、御恩)にかえります。

これを月日の教えでは、五音返し=御恩返し というそうです。

一神会のS先生に教えていただきました。

神の子であるわたくしたちは神恩に感謝し、神様のお役に立つようなことを少しでもさせていただく御恩返しの大切さを日本語でも知ることができます。



2008-12-08

明るく、前向きに！

神戸ルミナリエの季節となり、寒さが厳しくなってきました。

冬の寒さと時を同じくして、心まで寒くなるような暗いニュースが多い昨今ですね。

日本のみならず世界全体が、かなり深刻な不況(世界恐慌?)に突入したようです。

なんでも転がり落ちるのは加速度が付いて速いもので、米国にはじまったサブプライム問題で世界全体がおかしくなってきました。

「人間に金をまわして裁きする」と、予言書でもある「ふしぎな記録 第二巻金の巻」に記されていましたように、本格的な裁きの時代に入ったのかも知れません。

昨年(2007年)の12月30日に、推命&開運虎の巻メルマガ読者の皆様に配信したメールで、わたくしは冒頭に次のように申し上げました。

こんにちは、田中風州です。

いよいよ2007年も終わり、新しい年を迎えますね。

世間ではこの一年、偽装問題や年金問題等で揺れに揺れた年だったと思います。

「嘘は泥棒のはじまり」という事は、子供の頃よく耳にした言葉ですが、嘘を嘘とも思わない、何年も何十年も平気で一般国民を騙した罪は、悪かったと謝罪の言葉だけで済まされる問題ではないと思います。

神理の教えのひとつに「理の判断」というのがありますが、世間の流行廃りでこれからの出来事を予言すると、世の中はますます悪くなり、泥棒のような悪党が増えることが予想されます。

また、食品問題の偽装が顕著であったことから、「食は職」に通じる理により、来年の日本は景気が落ち込み、雇用情勢が一段と厳しくなるのではと予想します。

気を重くするようなことを申し上げて恐縮ですが、世の中が悪くなっても、自分まで悪くなる必要はありません。

ー以下 省略ー

わたくしが理の判断で申し上げたことがほぼ的中したということですが、あまり嬉しいことではありません。

来年(2009年)は、測局で、日本は落陥の天機が太歳命宮となり、太歳官禄宮が巨門化忌で、それに陀羅と天空、地劫が加わります。

測局では、大変な年になりそうな気配です。

ますます世相が暗くなり、将来の不安から人々は精神的にかなり落ち込む状況となるでしょう。

また仕事についても、巨門は口(くち)という意味から「食べる」ことにも関係します。

化忌は「失う」という意味ですから、職を失い食べることもままならないような人々が続出することが懸念されます。

でも、落ち込んだりしないで下さいね。

こういうときこそ、助け合いです。

仲良く、助け合って暮らすことが大切です。

とくに夫婦、親子の絆を大切にし、団結することです。

また、できるだけ明るく、元気に振る舞うことです。

明るいところには人が寄ってきます。

人が寄ってくるところに、いろいろな情報はじめお金も集まります。

まず、自宅に神棚をお祀りしましょう。

そして、定期的に近くの産土神社へお参りしましょう。

そのときに、すべての神様に通じる有り難い術事の神名を唱えて下さい。

あなたさまの近くの産土神社のご祭神にも必ず通じますし、事情や身情で苦しむようなことがあれば、その問題を解決していただける神様にも通じる神名です。

「名無一神多之命」様

なむいるしんおをのみこと さま

これが、術事の神名です。

一日、三回以上、どうぞ誠の気持ちでお唱え下さい。

不思議なご守護がいただけると思います。



2008-12-09

結婚したくない人へのメッセージ

この世にせつかく生を受けたのに、一人で生きて一人で死んでいくのは、まことに残念でもったいないことではないでしょうか・・・

この世には男と女しかいないんです。

その男と女が結婚して家庭を持つと、その家庭がもっとも基本的な単位であり組織です。

森羅万象は、陰と陽でできています。

「孤陽生ぜず、孤陰成らず」です。

男と女が家庭を持つと、子供ができるのが自然です。

陰と陽が揃うと、産まれるのです。創造されるのです。

「一＋二＝三」の数理は、古今東西、普遍の真理。

一は陰、二は陽、陰と陽がそれぞれの役割を果たし協力すると、三は「産」で、子供が生まれ、社会では産業が興ります。

そして家も企業も国家も存続発展するのが目出度いことであり、自然な姿だと思います。

どんな人でも一度は結婚されるのがよいと思います。

どんな人でもというのは、かりに結婚生活はうまくいかないような人であってもということです。

相性のいい夫婦でも、本当に仲のいい夫婦は少ないものです。

だいたいどちらかが辛抱したり、損をしたりするのが夫婦だと思います。

夫婦関係の在り様が、もっとも魂の修養に役立つことだと思っています。

いままでは配偶者選びは受難の時代だったかも知れません。

生活が豊かになり便利になって、一人で生きて生きやすい世の中だったからです。

でも、これからは結婚する人は徐々に増えるのではないのでしょうか。

経済的にも環境的にも厳しい時代となり、一人で生きていくより、二人、三人と大勢で助け合っ
て生きていく方がよりたくましく生きていけるからです。

そんな時代を迎えつつあるいま、自分勝手な人、自己本位だと思う人は精心(精神)をあらためる
必要があります。



2008-12-14

学徳

師走となりましたが、関西は穏やかな気温の日々が続いています。

昨日は、大乘推命学会大阪西教室の合同の忘年会を開催しました。

わたくしを含め、計16名方がご参加され、約三時間の間、ほんとうに楽しいひとときを過ごす
ことができました。

とくに第二土曜のクラスの皆さんは、昨日の講義で最終となり、師範課程を無事ご卒業いた
だきました。

大乘推命学会の通常四柱推命学の教室は、初学1年、本科1年、師範1年の計三年で卒
業となっていますが、このクラスは熱心な方が多くて六ヶ月延長となり、三年半の間教室に通
われました。

以後も、引き続き研究科を設けて、定期的に皆で四柱推命と紫微斗数を勉強していきたいと申
し出でありましたので、わたくしも快諾させていただきました。

勉強はひとりでコツコツやるのもいいですが、仲間と意見交換したり、教え合ったりして学
ぶのは励みになり楽しいものです。

利害関係のない老若男女(正確には中年壮年の男女)が、四柱推命という人間学の習得を目

的として集まった人たちですから、話題が合い、価値観に隔たりを感じない者同士ですので、会話がはずむのは当然といえば当然ですね。

以前、わたくしの師匠の亀石厩風先生がいわれていたことに、「四柱推命の教授指導は、たとえ教える先生が生徒さんより歳が若くても、また生徒さんが先生より社会的に地位のある方であっても、四柱推命という貴い人間学の学徳によって、先生という立場に立たせていただくことができる・・・」とおっしゃっていました。

浅学非才の身でありながら、わたくしを先生としてお付き合いいただいている受講生の皆さんにはあらためて感謝申し上げます。

そして、四柱推命学は人間学であるということをこのブログを読んでいたいただいている皆さまに声を大にして申し上げたいと思います。

四柱推命学は学ぶだけでも徳が授かる学問であると思っています。

四柱推命学は単なる占いではありません。

四柱推命学は、四柱八字に秘められた自分の先天運命、それは天から与えられた課題であり、使命でもあり、それを自身で真摯に見つめる学問です。

ひとり一人顔かたちが違うように、みなひとり一人、今生、果たす役割が違います。

各自の課題、役割は何なのかを教えてくれるのが四柱推命です。

難しい大学を受験するとき、合格するためには受験生は必死で勉強しますね。

学力不足の人は塾に通ったり家庭教師に付いたりして、さらに学力を高める努力をします。

それに較べて、天から与えられた課題を克服するために、必死に取り組んでいる人がどれだけおられるでしょうか？

わたくしも偉そうなことは言えませんが、少なくとも四柱推命と長年関わりを持ち、自身に課せられた天からの宿題が何なのかは熟知しているつもりです。

一流大学の入学試験より難しいと思われる天から授かった課題ですが、わたくしひとりの力ではどうしても解決するのが難しいと思い、いままで宗教関係や哲学関係の本にはかなりお世話になりました。

また実際に宗教家や霊能者の方にも教えを請うことも少なくありませんでした。

わたくしは、天から与えられた課題が難しい人ほど、塾に通うのと一緒で、先生について習う、つまり神理を教えていただけたところへ通うことが必要だと思っています。

そして言わずもがなですが、塾選びが大事なのと一緒で、間違いのない神理を教えていただけたところを探ることが本当に本当に大事なことです。

宗教の勧誘や入信を強要するのかと勘違いされるのはいやなので、いままでも控えめに申し上げていましたが、本当に安心して神理を学べるところ、気持ちよく修行させていただけたところは、非常に少ないと思います。

その中でも、千葉松戸に本部があります、自由宗教一神会は絶対にお奨めできる場所です。

因みに、一神会の会員信徒は、何回か足を運んで間違いのない人と認められた人しか会員信

徒にしていただけませんので、会員になりたいくてもすぐには認めていただけませんのでご了解下さい。

ご興味ご関心のある方は、わたくしの推奨する書籍「ふしぎな記録」や「ソロンの予言書」をまず読んでみて下さい。

さて、話を元に戻しまして、大学の入試なら解けなければ入学できないだけで終わりますが、天から与えられた課題が出来なかったなら、それはそれでお終いというわけにはいきません。

さらに次の世に生まれ変わったときに、もっと難しい課題(試練、逆境)が与えられることを覚悟すべきです。

四柱推命学の習得と神理の勉強は車の両輪です。

四柱推命学を学ばれる方は、是非、神理の勉強もしていただきたいと思います。

そして見事、今生、天から与えられた課題を立派に成し遂げ、神様から合格のご褒美をいただけることを願っています。



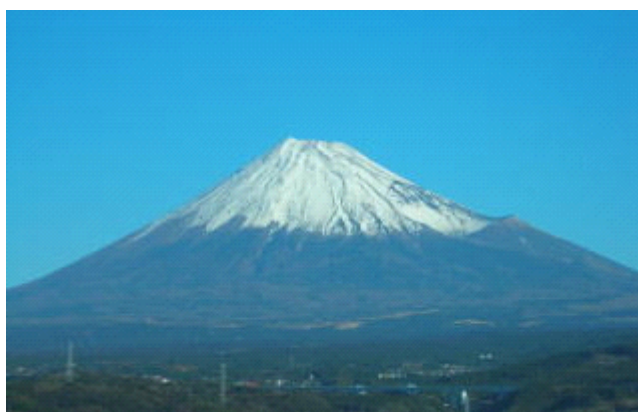
2009-01-02

平成 21 年(2009 年)は変革の年

新年あけましておめでとうございます。

今年もどうぞよろしくお願ひ致します。

下の写真は、昨日の元日に、東京へ向かう新幹線の車窓より撮った霊峰富士山です。



元日にふさわしい、本当に美しい雪化粧の富士山を写真に納めることができました。思わず、合掌したくなりました。

さて、昨日(元日)と今日(2日)、千葉松戸の自由宗教一神会へお参りに行ってきました。

1日の元旦祭では、つぎのようなことを教えていただきました。(若干、私見も含んでいます)
今年、平成21年は、干支では己丑で、九星では九紫火星の年です。

古来、丑寅の方角は鬼門といわれ、世間ではよくない方位とされていますが、本当は、鬼門ではなく「氣門」が正解で、丑と寅は気が変わるところになります。

(表鬼門の丑寅や裏鬼門の午未は、よくない方位方角ではありません。迷信です。)

九星では、来年が八白土星の年で、八白が変革、改革の年といわれますが、九紫火星は離宮の定位で、「離れる」、「別れる(分かれる)」の象意となり、離れるということは新しいものにつく、そして新しいものに変わるという意味にもなり、今年、平成21年は丑の九紫火星ということで、大変革の年となりそうです。

すでに昨年、米国で次期大統領に選ばれたオバマ氏は、「チェンジ」を合い言葉に大差で当選を果たしました。黒人の大統領は、米国ではじめてです。

また、清水寺で2008年の漢字で選ばれた一文字は、「変」でした。

いずれも今年の時代を先取りしているような感じですが、本当の変化、変革は、今年、平成21年(2009年)が本番ということです。

大晦日、失業して住むところも失った大勢の難民のような人たちが、炊き出しの列に並んでいる光景をTVで見ました。

阪神大震災のような天災ならいざしらず、経済不況でこのような事態になるとは誰が想像したでしょうか。

元日の日経新聞の一面には、「サバイバビリティ」という言葉が掲げられ、これからはサステナビリティ(持続可能性)より、このサバイバビリティ(生き残る力、生き延びる力)が問われるようになったと載っていました。

言葉を変えれば、“淘汰の時代”を迎えたとも言えます。

世の中のパラダイムが“変わった”ということです。

わたくしたちも、変わらなければなりません。

まさに、オバマ次期大統領が唱えている、“チェンジ”を胸に刻むことが大切です。

それでは、どのように変わるべきか、変わったらいいいのかということですが、ひとつの指針として、今年九紫火星ですから、「美しい」、「明るい」、「温かい」という三つの言葉を参考にして下さい。

美しいところ、明るいところ、温かいところには人が集まります。

活気も出ます。

不況を乗り切るキーワードともいえるのではないのでしょうか。

“世間波”、“人波”という言葉があります。

世の中の景気が悪くなったから、自分も悪くなった(倒産、失業等)という人もいますが、責任を転嫁している人は絶対に良くなりませんし、助かりません。

神様にしっかりと付いている人や、日頃、人様のために頑張っている人は、同じ波でも、“神様の波”に乗れる人です。

そのような人は、浮き世の好不況の波にも流されることのない人です。

一神会では、以前より、つぎの言葉をみなで唱和しています。

「みんなして 助け合って 仲良く暮らせ」

明るく、助け合って生きていくのが、神様の波に乗れる人です。
今年一年のみなさまのご健勝とご多幸を祈念申し上げます。



2009-01-09

神葬祭に参加して感じたこと

きょうの東京方面は、冷たい雨が降る寒い一日でした。

実は、よくごのブログでもお話しています、古代神道一神宮(現代名:自由宗教一神会)管長の浅見宗平先生の神葬祭が、千葉松戸の一神会本部で執り行われ参加してきました。

管長様は、この二日の未明に天国に旅立たれました。

1924年(大正13年)のお生まれですから、享年86歳。

晩年はお身体がご不自由なのに、最後の最後まで一神会会員信徒のことを案じておられた管長様…。

一生一代と心に決めて、わが身を棄てて世のため人のために尽くされ、古代神道の祭式・祓いの修行場である古代神道一神宮を創建された管長様…

そして何より、あの秦の始皇帝が徐福を使わして日本から盗み取ろうとした「十種の神宝(とくさのかんたから)」の教えを、天啓により授かり、ご著書「不思議な記録」や「ソロンの予言書」でわたくしたちに分かりやすく解き分けて下さった管長様…

いままで、本当に本当に有り難うございました。

どうか安らかに天国でお休み下さい…。

さて、先日のブログで、今年は九紫火星の年といいました。

九紫火星の定位は、離宮です。

離宮は「離れる」とか「別れる」という象意があるということも、この前お話ししました。

一神会では、管長様のご逝去という九紫火星、離宮の意味を先取りするかのような出来事が起こりましたので、わたくしの拙い「理の判断」ですが、今年は次のことに気を付けて頂いたらよいのではと思います。

まず、身近な人(事柄)との離別があげられます。

あなたのもっとも大切な人(事柄)、愛する人(事柄)との別れかも知れません。

そうした人(事柄)との別れが、今年、起こる可能性が高いと思われます。

こうしたことは、不意にある日突然起こることもありますので、心構えは大切です。

次に考えられることは、大きく世の中が変わる(それもよくないほうに)のではないかとことです。

管長様のご活躍された時代は、ある意味、昭和の激動期でした。

よいこともよくないこともたくさんあった時代ですね。

それから時代は、平成になり、また21世紀になり、世の中は以前よりどうもよくない方向に向かっているように思えてなりません。

確かに物質的には便利で快適な環境にはなりましたが、反面、何か生きにくい、ある意味肩肘張って生きていなければ、生存競争に負けて、惨めな生活を余儀なくされるというような漠とした不安が、わたくしの心の片隅にあります。

悲観的なことをいうようで申し訳ありませんが、みなさんはどう感じておられるでしょうか？

このようなことを感じている人は、まだ少数派になりますでしょうか？

わたくしは何も、資本主義や自由競争の善悪を論じるつもりはありません。

この世の仕組みやシステムに完璧はあり得ないと思っていますので、いままでの時代にはこの両者のシステムは必要だったと思います。

管長様のご著書「ふしぎな記録 第二巻」金の巻に、

**にんげんに かねをまわして さばきする
(人間に 金を廻して 裁きする)**

とあります。

そして、いまが最後の審判(さばき)のときとおっしゃっています。

最後の審判(さばき)とは、今度、生まれ変わるとき人間になれるかなれないかの審判が下されるという、本当にいまがその瀬戸際のときということです。

ある意味、平成の「ノアの箱船」ですね。

つまり、人間も陶太されるときがきたということですから、いわんや、世の中の役に立たないような会社や家ももちろん陶太されるということです。

いままでは、神様も裁きを緩やかに行っておられたようですが、いよいよ今年から、本腰を入れて着手されるのではないかと予想します。

今年、さらに倒産が増えるでしょう。

いまの世界の経済状況から考えると当然かも知れません。

すでに職を失って、住むところも失い、食べることに事欠く人が急増しています。

わたくしたちはこの現実を直視し、対岸の火事ではなく、自らの教訓として自覚しなければなりません。

そうです。

わたくしたちは、生き残っていかなければなりません。

生き延びていく必要があります。

そして、またの世も、再び、人間にさせていただかなければ絶対に困ります。(みなさまもそうですよね)

では、どうすればいいのか？

その答えは、どうぞ、わたくしがお奨めしている、「ふしぎ(不思議)な記録」や「ソロンの予言書」をお読み下さい。

答えはその本に書いてあります。

せっかくですから、ひとつだけお話しすると、「ついている人になれ」ということです。

「ついている人」とは、神様に付いている人という意味が第一。

そういう人は、運も「ついている人」になれ、運命運勢が向上します。

船井幸雄氏と中矢伸一氏の共著「いま人に聞かせたい神さまの言葉」で、中矢氏曰く、「祀る」という語源は、「まとわりつく」からきたとおっしゃっています。

幼子がお母さんにまとわりつくというような感じで、わたくしたちも神様にまとわりつくくらい、常日頃、神様神様と術事の神名を唱えていることが、大切だと思います。

くどいようですが、今年は、九紫火星、離宮さんです。

神様からくれぐれも離れないように、しっかりとしがみついてお通り下さい。



2009-01-10

十日えびす

きょうは、十日えびすの日ですね。

商売繁盛の神様ですから、きっと例年以上にたくさんの人でにぎわっていることと思います。

わたくしの妻は、大のえべっさんファンです。

本家本元の西宮神社にお参りに行ったようです。



わが家にお祀りする御札だけでなく、親戚の分まで頂戴してきました。
もともと妻の出生地は西宮ですから、西宮神社は妻にとって生涯の産土神社のようなものです。
わたくしもお参りしたかったのですが、昨日は神葬祭で、きょうも用があつて、一神会の大阪連絡所へ足を運んでいました。

妻はわたくしの分まで、西宮神社の神様に祈願してくれたと思います。

ところで、恵比寿(戎)様、大黒様は、もっともわたくしたち庶民の身近な神様と思いますが、実在の神様です。

以下に、ご参考までに、書籍「不思議な記録」第 17 巻より謹んで引用させていただきます。

事代主之命様と大黒主之命様

恵比寿様と大黒様は 本名は 事代主之命(ことしろぬしのみこと)様と
大黒主之命(おおくにぬしのみこと)様と申し上げます 漁業 農業 工業
商業と言う様に 働く事を受持っている神様は 多勢いるのでありますが
多勢の神様方の代表として 人間世界に 人間の姿をした人格神として
現れました そして 人間に働いて生活する事を教えてくれました 実在
の神様方でありました 事代主之命様は 人間に漁業水産で働く事を教え
ますと 大黒主之命様は 農業や商業で働く事を教えました

… 中略 …

此れでお判りの如く 人間に働いて生活をして行く事を 教える為に 神様
でありながら 人間の姿をされて現れて 人間世界を人間と共に通って
下さった 事代主之命様と大黒主之命様は 恵比寿様と大黒様で 人間に
尊敬され 親しまれたのでありますが 現在の人間は 働いて生活をする
事を 教えてくれた神様の御恩を 忘れてしまったので 不幸災難が迫って
くる訳であります その事に気が付いたならば 一刻も早く信仰心をとり戻
して 家には神棚を作って 宗教宗派に片寄らない 寛大なる心の自由宗教
一神会の行き方で 元一之大親神様の神名であり 術事の神名の御札を
中央にお祭りして 朝晩に四拝八拍手をして 神名を三回唱えて下さい
どうぞ習慣になる様に 努力して下さい…



2009-01-11

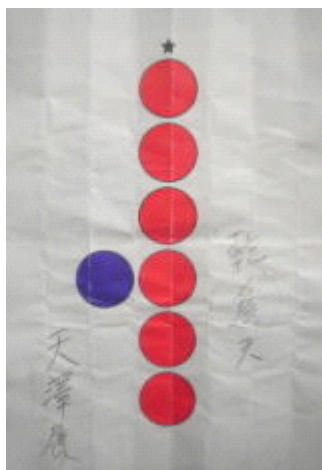
一神会のおみくじさん

二日に一神会で恒例のおみくじさんを引きました。
一神会のおみくじさんは神易です。

何かひとつだけ神様に伺いことを心に念じて、術事の神名を唱えて箱に入っているおみくじさんをひとつ引きます。

そのおみくじさんの卦爻をみて、特別に選ばれた一神会の先生方がアドバイスをされます。

わたくしが引いたおみくじさんを開けると、次のような赤の「●」が六個と、下から三番目に青の「●」が一個横に並んでいます。



赤丸は陽で、青丸は陰を表し、赤丸六個はすべて陽ばかり、上卦も下卦も天を表しこれは「乾为天」。

変爻は三で、「本卦乾为天を得て、三爻変となる」で、三爻変は、天澤履。

これは下から三番目だけを陰におきかえると、上卦は天のまま、下卦は澤となり天澤履となります。

そんなに悪くない卦だと思いましたが、商売や事業ではやる気はあっても実入りが少ない、つまり利益が伴わない結果になりやすいと教えていただきました。(少々、ガッカリ)

ライバル(同業他社)に注意し、お客様の「為」になることを第一に考え、儲けはトントンでもいいから繋いでいくという考えが大切と言われました。

ご興味のある方は、易の書籍やインターネットで乾为天を検索して調べてみて下さい。

易(周易)は占いの根本かも知れませんね。

海外にも、易のファンは多いと聞きます。

欲張りかも知れませんが、周易も勉強してみたいと思っています。



風邪引きの種

最近、厳しい寒さが続いています。

とくに今年は、関西のほうが寒いようで、暖かい春の訪れが待ち遠しく思われます。

風邪を引いておられる方もあるかと思いますが、どうぞお大事にしてください。

以前、新聞に載っていたあるお医者様のお話で、風邪は次の三つの条件が揃うとかかるとおっしゃっていました。

①寝不足

②食べ過ぎ(飲み過ぎ)

③寒いと思ったとき

ですから、どれかひとつでもクリアしていたら風邪を引かないということです。

①と②は、働き盛りの人や、不規則に一度にドカッと食べるような人は要注意ですね。

わたくしはとくに③に気を付けています。

就寝するときなども、肩当てというのでしょうか、布団や毛布だけでは肩が冷えますので、パジャマの上にこれ(次の写真)を着て寝ています。



ここ何年か、風邪を引かずに過ごしているのも、ひとつはこのお陰と思っています。

それと、わたくしはダメですが、うがいですね。

外出先から帰って来たら、うがいをする・・・

これをきちんと守れる人は少ないと思いますが、意志の強い人にはお奨めします。

ところで、神理の教えではどうして風邪を引くのかご存知でしょうか？

いま、風邪を引いておられる方には、耳障りなことを申し上げることになりますが、知っておかれるとよいと思いますのでお教え致します。

なお、これも一神会で教えていただいたことですのでご承知下さい。

●風邪引きの種(神理の教え)

①金引き(払うべきものを払わない)

②身びいき、えこひいき

③せかつく(人をせかすこと)・・・とくにこれは咳が出る

以上です。

わたくしは風邪を引くときは喉がやられます。

そして、咳が出ます。

長男も小さいときは喘息気味で、苦労しました。

お恥ずかしい話ですが、わたくしの性質は、一見、悠長で暢気に見えますが、内心はかなりせっかちです。

九星気学をご存じの方ならお分かりと思いますが、わたくしは震宮傾斜です。

じっとしてられない性格です。

大阪弁で、あまり好きな言葉ではありませんが、「いらち」というのでしょうか。

一神会にお世話になって、反省するようになりましたが、まだ直っていません。

性癖を直すのはかなり根気が要りますね(笑い)。

子供の病気は親が原因というのも神理の教えのひとつです。



2009-02-11

エコ人間

ご無沙汰しています。

いま、千葉の松戸の一神会本部で祭式の修行中です。

毎日、楽しく修行させて頂いています。

一神会近くのホテルに泊まっていますので、毎晩、田畑先生の神理の勉強会も参加でき、充実したときを過ごしています。

きょうは、第二御縁日で修行はお休み。

副会長様より大変素晴らしいお話を拝聴しました。

それが標題の、「エコ人間」です。

以下、私見もまじえてお伝えさせていただきます。

環境問題への対応から、電気やガソリンなどのエコが進んでいます。

いままでと同じかそれ以上の性能で、消費電力が少ないとか燃費がいいという経済性が求められていますね。

人間もいままでより食事の糧を減らして、これまでと同じように仕事や勉強ができるような「エコ人間」が求められる時代になりつつあるということです。

「貧乏人の子沢山」といって、昔は貧しい家庭ほど子供の数が多かったように思いますが、絶対的な人口が少ない時代で、かつ食糧の増産が見込める時代でしたから、何とかそうした苦境も切り抜けることができました。

しかしこれからはそうはいかないでしょう。

世界的な人口の膨張や異常気象等による農業生産の深刻な事態は避けられそうにないように思います。

古来、食べ物の恨みは恐ろしいといわれていますが、食べ物が不足すると争いや喧嘩が多発することは間違いありません。

わたくしたち人間も、小食で生活できるように身体の経済性を高めておく必要があります。たとえば三食を二食にするとか、おかずを一品少なくするとか、そうしたことを単なる節約のためだけでなく、生き延びる術のひとつとしてい前から準備しておくということです。

今回、わたくしは貴重な体験をしました。

8日からの修行に入る前日、食あたりか何か原因は分かりませんが、急にお腹の調子を崩し、激しい下痢に見舞われました。

胃腸薬を飲んで、どうにか8日の夜からの修行に参加することが叶いましたが、ひどい下痢が続いた間、食事はおかゆと少々の野菜といったまったくの小食で通りました。

きょう、副会長様の「エコ人間」のお話を伺い、わたくしのこの下痢の意味がようやく理解できたように思います。

神様から身をもって教えていただくと、いまは感謝しています。

また、前にも書きましたが、今年は九紫火星の年。

火災や争いごとが多い年です。

すでにオーストラリアでは、ご存知のように森林大火災が起こりました。

中国では巨大なホテルが大火災になりました。

農業に大きなダメージを与える夏の日照り、干ばつも心配です。

こういうときこそ、術事の神名を唱えて、神様に無事通らせて下さいませと、日々、祈願することを心掛けたいものです。

【追伸】

きょうは嬉しいことがありました。

わたくしのこのブログを見て、一神会に足を運ばれるようになったYさんという美しい女性の方から、一神会で声をかけて下さいました。

そうした方がひとりでもおられただけで、わたくしもこのブログを書いてよかったと幸せな気持ちでいます。



2009-02-17

一神会での祭式修行が無事終わりました

一神会での祭式修行が無事終わりました。

三月には、祓いの修行があります。

修行のときには因縁が出たり、いろいろな啓示のような出来事があります。

今回、わたくしにもあり勉強させていただきました。

修行は辛くて厳しいものと思っておられる方も多いと思いますが、一神会の修行は楽しくて気持ちのいいものです。

とくにわたくしは祓いの修行が好きで、来月がまた楽しみです。

わたくしの大阪の四柱推命の生徒さん(女性)が、今回、修行をはじめて受けられました。

彼女は昨年、一神会の会員になり、十月十日のお産の神話の講習会もすべて出席され、今年
の修行も頑張っておられます。

彼女のようにとんとん拍子で修行を受けることができる方は、もともと御神縁に厚い方だと思います。

世の中が不景気になり、暗い世相になってきていますが、こういうときこそ神様にしっかりとしが
みついて、どうか無事に通らせて下さいと祈りながら進むことが大切です。

以前のブログにも書かせていただきましたが、「信仰」は「進行」です。

じっとしては、運はよくなりません。

神様のところに足を運び、神理のお話を聞いて勉強したり、修行をして神様のお役に立てるよ
うな勉強をすることが、因縁自覚になり、また因縁を切っていただくことになります。

因縁は絶対に人間の力では切れません。

滝に打たれたり、人里離れたところで苦行したりしても、心身は鍛えられるかも知れませんが、
因縁は切れません。

神様も神様でありながら祓いの受持ちの神様方をお呼びになりお祓いを受けられました。

お祓いはとても大事です。

「罪と穢れ」という言葉がありますが、罪は自分の犯したことですから、自覚があつてお詫びも
できます。

でも、穢れはなかなか分からなかったり、気付かないことが多いです。

憎しみ、恨み、妬み、嫉みなど、どんな人でも大なり小なりご経験はあることと思います。

「美人薄命」などといわれるのも、この妬みや嫉みが大きな原因であるともいわれています。

生きている人からのこれらのマイナスの念波は、生き霊となってどうしても身体の不調や運命運
勢の悪化に繋がるが多いようです。

お祓いは、こうしたマイナスの念波である穢れや邪気を神様が祓って下さるのです。

一神会のお祓いは、すごいと思います。

はじめて御縁日などに参拝された方は分かると思いますが、一神会の幣の祓い(御幣を持って
神主様が左右に振るお祓い)は、御幣の紙がちぎれんばかりに勢いよく幣を左右に振って祓っ
ていただけます。

詳しくは、「不思議な記録」をお読み下さい。

では、また、お会いしましょう。



2009-03-13

祓いの修行

いま、一神会で祓いの修行中です。

神主様が幣(ぬさ)を左右に振って、お祓いを受けられたご経験はほとんどの方はあると思いますが、あれはお祓いのひとつで風の神様のお力をいただいて祓っていただく神事です。

それ以外のお祓いとして、水の神様のお力をいただいて行う御塩の祓いや、火の神様のお力をいただいて行う焼き釜(火打ち石で行う)の祓いがあります。

さて、わたくしたちはどなたさまであっても怒ったり、憎んだり、恨んだり、嫉妬したりということは多かれ少なかれありますね。

そうしたいわばマイナスの想念は、自らの心が発したのですが、発した自分自身の魂を汚していることとなります。

また、自分が発したものでなくても、人や特定の場所(具体的には家屋)などから発せられたマイナスの波動を受けて、自身の魂によくない作用を及ぼすことがあります。

わたくしたちが普段生活しているときに発したよくない感情や想いは、積もり積もって罪穢れとなり、悪因縁となって、不幸不運の原因のひとつとなってきます。

ですから、因縁を切ったり因縁を良い方向に転換するには、神様に祓っていただくことがとても大切なこととなります。

また、「祓う」は、「はらう」、つまり滞りなくお金の支払いもできるようになれるという有り難いご利益もいただけるということです。

今後ますます不景気が心配されますが、事業商売をされている方は、従業員の給与の支払いや購買先の支払いに苦慮されている人もおられるでしょう。

願掛けで祓いの修行をすると、神様からお力をいただいて不思議にお金の工面ができたりするということです。

神様に対する礼儀作法を身に付ける祭式修行や、罪穢れを祓うための祓いの修行は、なにも神社に勤める神主様だけがする修行ではありません。

わたくしたちは、みな、神の子。

この世の掬えぬ主であり、人間を造られた神様に対するご恩に少しでも感謝するために、このような祭式修行や祓いの修行は大切なことであるということを一神会で教えていただきました。



2009-03-24

お目出たに必要なこととは・・・

東大寺二月堂のお水取りも終わり、春のお彼岸も過ぎて、九州のほうではもう桜が満開だそうです。

本格的な暖かい春の訪れは、もう間もなくですね。

大地から、また木の梢から、今年の新芽がいっせいに顔を出してきます。

いままで厳寒の季節に冬眠していた動物たちも、春になれば元気よく活動をはじめます。

陽春という言葉がありますが、春は新しい生命をはぐくむ季節でもあります。

さて、子供ができない悩みを抱えたご婦人のご相談をいままでにお受けしたことがあります。

子縁に薄いというのは、ほとんど先天的なものと思います。

したがって、生年月日にも表れていることが結構多いです。

とくに四柱推命では、子女(子供のこと)の星というのが決まっていて、また生時が子女の宮なので、子女縁の厚薄と吉凶はかなりよくわかる占術です。

一神会の神理の教えでは、子供がほしくともできない人というのは、それなりの理由があることを教えていただいています。

ただ、現実的な対策として、出産はお目出た(お芽出た)といいますね。

暖かい春の気配の訪れなくして芽は出ないのです。

また、農業は土作りが大切といいます。

冷たく硬い土壌に種を蒔いても、なかなか芽は出ません。

有機肥料を混ぜて、農地を耕すということは、土が温かく、柔らかくなって発芽しやすい環境を作っているということです。

それと同じ理屈で、お目出たとなるには、家庭に温かさやぬくもり、ソフトさが不可欠です。

とくに女性である妻が明るく、陽気に振る舞うことが大切と思います。

室内も明るい色のインテリアにするとか、普段身に付ける服も明るい色にするとかの工夫も効果があると思います。

結婚して子供を育てて、やっとな社会人として一人前といわれたりしますが、子供を一人でも責任をもって育てることは、本当に大変だと思います。

とくに女性にとっては出産、育児は一大事業。

子育てを通して人生勉強をさせられることが多々あります。

そういう意味でも、お子様は一人でもおられたほうが自身の魂の向上にとって大切だと思います。

「子供は自分の来世の姿である」と、一神会で教えていただいていますことを最後にお伝え致します。



2009-04-02

神理の教え・・・1

一神会で教わったことの一端をご披露させていただきます。
ご参考になさって下さい。

- ・「因縁」という言葉は嫌いでも、因縁からは誰も逃れられない。
であるなら、できるだけ善い因縁を育て、悪い因縁は切り替えていく必要がある。
- ・世の中には信仰心を持っている人は大勢いる。
その中で一番多いのは御利益信仰である。
つぎに多いのは感謝の祈りを捧げる誠実な人である。
しかし、神様にお詫びし、お詫びの行いをする人はほとんどいない。
運命運勢の転換をするために何がもっとも大切かと問われれば、お詫びができる人である。
- ・[夫婦因縁の方程式－1]
夫婦の因縁は五分と五分。
夫だけが妻だけが悪いという理はない。
- ・[夫婦因縁の方程式－2]
たとえ離婚して籍を抜いたとしても、生涯、もと夫(妻)の家の因縁は背負うことになる。
- ・離婚して子供を育てることを放棄した人は、「捨て子因縁」となる。
次の世、生まれ変わったときは、自らが捨てられる運命となる。
- ・親が種で子が花。
タンポポの種からはタンポポが咲き、ひまわりの種からはひまわりが咲く。
子は親と同じ因縁を持っている。
だから子の事情・身情問題は親のお詫びが大切である。
- ・智恵遅れや身体に障害を持ったような子を憐れと思うなら、親はできる限りの面倒をみなくてはならない。
子は自分の来世の姿である。

- ・親不孝な子を授かったのは、自分が親不孝をしてきた種である。
- ・頭の患い(精神疾患)は、親が目上の人を馬鹿にした種、仕事を怠けた種である。
- ・安い給料でこき使われている人は、経済的には大変かも知れないが、子は自閉症や怠け者にはならない。
反対に、自らのほたらき以上の給料をもらっている人は、子の頭の患いには注意が必要である。
- ・家が火事になるのは夫婦の争い、隣近所との争いが種である。
- ・父親が自分勝手に自分さえ、自分の家さえよければというようなケチな人は、道楽息子で苦勞を強いられる。
- ・昔の道楽は粋な遊び、多少なりとも文化的なものであったが、いまの道楽はパチンコや競輪、競馬のような博打、あるいは女遊びで、動物に落ちるような運命となるので「道楽」ではなく「動落」という。

以上、神理の教えはほかにもいっぱいありますが、どんな教育や学問より、人間として学ばなければならない勉強です。

神理の教えを学んだ人は、得な人、つまり得人(徳人)となります。

そして、巷に普及している開運法のほとんどは、対処療法的な一過性のものです。根本的な運命運勢の改善は、神理の教えしかないことを痛感しています。



2009-04-06

料理(神理の教え)

☆きょうの神理の教え(一神会での講話より)

「いい加減な手を抜いた料理を子供に食べさせていると、それを食べ続けた子供は親と一緒に、いい加減な手を抜く大人になってしまう。」

毎日の飲食は、子供の性格、はては人生を決めるのに大きな役割を果たします。

「おふくろの味」という言葉がありますね。

いまはあまり聞かれなくなりましたが、母親が、子供のために気持ちを込めて作った料理、拵え

た食べ物は美味しいですね。

食べ物に母親の愛情というプラスのエネルギーが込められているからです。

反対に、日々の食事をコンビニなどで買った、出来合いのものばかりで済まして手を抜いていると、子供もいい加減な手を抜くような人になってしまいます。

米国で生まれたファーストフードのお店は、たしかに安くて便利です。

でも、これらのお店が日本に数多くできてくると比例するかのようになり、日本人、日本の国が何かおかしくなってきたように思うのはわたくしだけでしょか？

食の乱れは、国の乱れに繋がるほど怖ろしくてとても大事なことです。



2009-04-07

動物に生まれ変わる人とは(神理の教え)

☆一神会御神言

「そのからだ ころとおりに あらわして かしあたえた」

(その躰 心とおりに 現して 貸し与えた)

動物のような心使いの人は、次の世、生まれ変わったときには動物になると教えていただいています。

では、具体的にどのような人がそのおそれがあるのか、ご参考までに記しますと、

- ・人身売買のような人を売ったお金で生活した人、
あるいは、人を喰いものにし人の一生を潰した人
※生まれ変わったときに、こんどは、自分が食われる動物になる。
- ・平気で子供を捨てるような人
※動物でも子に餌を与えたりして面倒をみている動物もいるが、
平気で子供を捨てる人は動物以下ということになる。
- ・まったく信仰心の欠けらもない人
※動物は神仏を敬うようなことはありません。
- ・寝たきりで、自分で大小二便の用が出来ない人
※動物の排便は垂れ流しです。

心使いが自分の躰に現れるということは、逆もまた真なりで、動物のような格好で日々過ごしている人は、動物の魂に近づいているということに要注意です。

熱帯地方にいるカラフルな鳥のような頭髪をしている人・・・
何日も風呂に入らず、乞食のような格好をしていても平気な人・・・
気を付けて下さい。
動物になる予備軍の人たちです。

いまは＜最後の審判(さばき)＞のときも教えていただいています。
最後の審判のときとは、こんど生まれ変わったときに、再び人間にしていいただけるか、あるいは動物になってしまうかという、まさに瀬戸際の時代だということです。
そしてその最後の審判を任された神様は、円縁つなぎの理受持の神様ですから、とくにお金の使い方は誰もが気を付けなければなりません。
神理の教えを学び、正しい信仰心を持つことの大切さをお分かりいただけたでしょうか。



2009-06-27

賭け事、勝負事の好きな人は要注意！

人生、晩年は安穩に暮らしたいと思う人は多いはずですが。
70歳を過ぎて、事業倒産や株で大損して、生活苦に陥るようなことになれば悲惨です。
最近、お気の毒といえますか、惨めな事態に陥られた方の相談を受けました。

相談内容をお聞きして、「なんでまた！？」という驚きを禁じ得ませんでした。よくよくお話をお聞きすれば、厳しい言い方になりますが、この世の法則通りのことが起こったのであり、自分たち(夫婦)の蒔いてきた種が、「円縁繋ぎの理」に外れていたということです。

円縁繋ぎの神様は、神理の書物である「ふしぎな記録」第二巻(金の巻)に詳しく記載されていますが、金を廻して裁きするという閻魔大王のような役割を担っておられます。

今回のご相談をお伺いして、本当に神理の教え通りの結果になっていることを痛感しています。
夫婦円満でいたいと望んでおられる方は、知っておいて損はないと思いますので、一神会で教えて頂いた神理の教えを謹んでお話させていただきます。

まず、どのようなご相談であったのかを掻い摘んで申し上げますと、奥様からのご相談で、夫が今回の金融恐慌で株で大損し、自宅まで手放さなければならないような事態となり、今後のことが心配なので、妻としては別居もしくは離婚を考えているのだが・・・、というご相談内容です。

余談ですが、妻である奥様は相当な怒りを持っておられることは言葉の端々に出ていました。(まあ、これも分からないこともありませんが)

ご主人の株式投資(投機)は半端な額ではなかったようで、バブル全盛期のときには一日で(一日ですよ)、何千万円も設けたことがあるということです。

さて、麻雀、競馬、競輪、競艇等、賭け事はみな博打です。
わたくしは宝くじも博打みたいなものと思っています。
そして、先物や分不相応な株への投機は、これも博打と一緒に思います。
違うのは、博打は、「勝った、負けた」ですが、株は「(株価が)上がった、下がった」の世界です。
昔から、博打(ばくち)で儲けた金は身に付かないといえます。

以前にもお話したことがあります、お金は神様が拵えたもので神通力があります。
世の中に役立つように、人の為になるようにと神様が拵えられたお金です。
その神聖なるお金を自分たちの欲得だけで儲けたり、溜め込んだらどうなるか・・・
いわずもがなですが、「円縁繋ぎの理」に背けば争いの種となります。
世間によくあるのは、遺産争い、離婚の慰謝料の争いなどです。

また、自らの正当な労働の対価として得た報酬でないお金(財産)は、いつかは天の差引き勘定にあって、吐き出さなければならぬことになっているのがこの世の神理です。
たとえば、親が莫大な財産を残したとしても、子や孫の代で、遊び人の道楽息子が出て、財産を食い潰すようなことが起こったりします。
あるいは、家族の誰かが難病や不治の病におかされ、高額な治療費がかかるといったケースがあります。

差別用語になって恐縮ですが、理の判断では、
「バクチ」は「ハクチ(白痴)」につながります。
つまり子や孫の代で、白痴(知的障害者)のような人が出てくるおそれがあるということです。
因みに、このご婦人のお嫁さん(息子の妻)は、かなりひどい鬱病をお持ちということです。
もうひとつ、博打の「かた」に〇〇をとられたといういい方をしますが、「かたわ(身体障害者)」も子孫に出てくることがあるということです。
このような賭け事や博打好きな人の奥様は、だいたい「勝ち気」な女性と教えていただいています。
「勝ち気」な女性が、勝った負けたの好きな、つまり勝負事や賭け事が好きな男性に縁があるのも因縁のなせる業です。

今回のご相談に来られた女性も、一見、上流社会の美しいご婦人のような方ですが、言葉使いがとてもきつく感じられ、家庭では夫を尻に引くような勝ち気なご婦人であるように感じました。
夫が悪い、主人が憎いといっても、夫婦という絆が結ばれたのは、同じ因縁があるからです。
夫婦の因縁は、五分五分。
どちらかが、一方的に良い悪いはないのです。

でも、残念ながらこのような目に遭う方は、そのあたりの理屈が分からない、分かつてもしない方であって、言わば、悟りのない方だから、救いようのない方といえるかも知れません。
四柱推命や紫微斗数で鑑定させていただいても、どうしてそのようなことが起こったのか分かり

ません。

単なる身の不徳や不運ではないのです。

不幸不運の原因は、厳然とした因縁因果の法則があり、神理の教えに合わない、あるいは逆らった行いをした結果であることをみなさまはよくよく悟っていただきたいと思います。

「円縁繋ぎの神様」は、正しいお金の使い方をしている人や、人様に喜ばれるようなことをし続けている人には、よい円(縁)を授けていただけます。

おつなぎや、願掛けがこの神様に好かれるととてもよい方法であることを最後にお伝え致します。



2009-07-10

鬱病(うつ病)対策

最近、鬱病と診断されて、職場を休んだり配置転換を求めることに、会社も理解を示し、本人もあまり抵抗感がなくなりつつある時代となりました。

心療内科や神経内科の医院、診療所をあちこち目にするようになりました。

ひと昔前では考えられないことではないでしょうか。

職場からのリストラ対策のひとつの手段として、陰湿なイジメがあるという報道を知りましたが、そのような場合はたしかに鬱病になったりするのもやむを得ない面はあるでしょう。

昨今の不景気で職がないから、会社を辞めたくても辞めれないジレンマは心の葛藤となり、心身の状態に異常を来すことも考えられます。

でも、そうではない場合もあるようです。

周りをみても、豊かな時代に生まれた世代の人ほど、どうもひ弱になっているように思います。

ストレスを上手く発散する方法も知らない人が多いように思います。

それともうひとつ、一生懸命働いていて鬱病になったりする人は、仕事に喜びを見出せない人であり、イヤイヤ仕事をしている心は怠け者の人であると一神会では教えて頂いています。

本当にそうだと思います。

起業したりするような人は、最初は、1年365日休みなしで働いている人もたくさんいます。そうした起業家は挫折することはあっても、鬱病になったと聞いたことはありません。

夢と希望があれば、仕事は楽しいし、疲れを覚えることもほとんどないでしょう。

要するにどのような心構えで仕事に取り組んでいるかということです。

天職が得られるということは、よい配偶者に恵まれることに匹敵するくらい価値あることと思いますが、そんなに恵まれた人はそうはお目にかかることはありません。

仕事も夫婦生活と同じで、相手、つまり仕事に合わず姿勢が大切です。

夫や妻の悪口を言っている間は、いっこうに夫婦関係はよくなるのと同じで、仕事の不平不満を口にしている間はイヤイヤ仕事をしているのと同じです。

仕事にどうしたら喜びを見出せるかを、よくよく考えてみたいものです。

これができれば、仕事で鬱病になることはまずないと言えるでしょう。



2009-09-12

長男が養子に出るのは怖ろしい・・・

たまたま阿部泰山先生と並んで、斯界の大御所的存在である初代・高木 乗先生の生い立ちが掲載されているサイトを見て、気になることがありましたのでお話し申し上げたいと思います。

まずは、以下をお読み下さい。

とくに、長文ですので青字(アンダーライン)のところだけでもお読み下さい。

<高木 乗>(初代) 四柱推命学、「命理学会」会長、元新聞記者、刀剣鑑定家、詩人。

●たかぎ・じょう

●1879年(明治12)4月20日亥刻生まれ。

●出生地:水戸市根積町外四丁目。

●本名 : 清水孝教(たかのり)。また、詩人としては清水橘村(きつそん)のペンネームを持つ。

●家系:

清水孝義・まつの長男として出生。

父:清水孝義。(清水介三郎孝義)弘化3年8月3日(西暦1846年9月23日)

生まれ。(戸籍では)水戸市根積町外四丁目の市長(茨城県辞令)。後に開拓者となって、茨城県東茨城郡橘村に移る。(※根積町は現・柳町/水戸駅から東南東に1^キの辺り)母:清水まつ。弘化4年5月7日(西暦1847年6月19日)生まれ。

(戸籍では)祖父:清水孝繼。京都二条城の武芸師範であった。

高木乗(清水家)の祖先は常陸太田地区の出身で、古い云い伝えでは平将門の一族であったとされています。曾祖父三代前の人は大変博学な人で、もと神官から士分に取り立てられています。祖父は明治維新前に、京都倉奉行の中の重役になり、死んでからは皇居墓所である、京都月の輪湧泉院の中の一院の、しかも3歳で亡くなった明治天皇の姉君の御墓所の真ん前に葬られたとのこと。

この祖父は八宗兼学の人で、鎗、矢弓、鉄砲などの師範役にもなっていた人

でした。高木乗(清水孝教)は、清水孝義・まつの長男として出生したものの、

一人腹違いの姉がいて、その姉に養子を迎へて実家の清水家を譲っています。...

【時事新報の記者時代の話】

高木乗が占術にのめり込むようになった切っ掛けが観相の大家・櫻井大路との出会いにあった。

新聞記事で何か面白い読み物を、東京日々新聞の娯楽面に組めないものかと、編集部で案を出すことになった。そこで当時、評判になっている東京在住の占術家の特集を組もうという企画が上がり、占いには手相・人相・家相・易・墨占い・算命術・水晶占い・九星気学・占星術等があり、それぞれの占術を得意とする占術家の記事を、毎週連載することとなった。その企画記事のチーフに清水孝教(高木乗)が当たることになったのである。

その特集の最後に、人相の大家・櫻井大路の原稿を取りに行った帰り際に、清水孝教(高木乗)は何気なく櫻井大路にこう尋ねた。「ところで先生、これから私はどうなるのでしょうか？」その時は既に夕方であったので、玄関先で、大路はしばらく眼鏡越しに清水孝教(高木乗)を見ていたが、「薄暗くてハッキリ見えないが(顔が)、君は子供さんを1・2年の内に亡くすかも知れない。それに新聞記者も辞めるだろう。」と言った。

清水孝教(高木乗)はその言葉を聞いて、「当たるも八卦・当たらぬも八卦とは良く言ったもんだ。冗談も休み休みに言え。子供は風邪どころか病気一つしたことがない。自分の仕事も油が乗って、バリバリやっている。でたらめも良いところだ」と、カリカリしながら櫻井大路の門を辞した。

後述するように、それから一年、長男、続いて次男を失い、そして間もなく新聞社を去る事になる。 また、高木乗自身も後年、人相を研究し、『人相の秘鍵』という本を執筆している。そして、高木乗もかなり人相も出来るようになったが、恩のある櫻井大路の手前、大路に対して礼を失するといけなないということで、手相は前面に出さずに、四柱推命を表看板としたとのこと。・・・

<※出典資料:「初代高木乗にみる父子相尅」(西村登著、1989年05月25日)>

1919年(大正8)、長男(明治36年3月6日午前7時生まれ)を亡くす。

この事がきっかけで四柱を研究し始めます。『生まれ日の神秘 四柱推命学』によると、17才で長男を亡くしたことで、悩みの中、高木乗は精神的遍歴をします。キリスト教、様々な宗教書、児童教育、児童心理学、哲学、天理教、参禅、姓名学、人相学、九星と精神的・宗教的世界や様々な占術に解決を求めましたが、彼の悩みを解決してくれるものはなかったのです。

→<http://www.interq.or.jp/chubu/sarai/sub02-02-TakagiJ1.htm>

(以上、五行学研究所ホームページより抜粋させていただきました)

さて、死因は不明ですが、父親としてまだ未成年の息子さんをふたりも亡くされた悲劇はわたくしも二児の父親ですからよくわかります。

高木乗先生の四柱命式も掲載されていますので、ご紹介しますと、

時 日 月 年
比 日 正 偏
肩 干 官 官
癸 癸 戊 己
亥 酉 辰 卯

という命式で、大運:庚申、歳運:己未の年にご長男を亡くされたということです。

僭越ながら、わたくしなりの命式の判断をさせていただきますと、月上の戊の正官は子供の星でありますが、それが日干と時上の癸と妬合になり、エネルギー的にはかなり弱くなります。

卯辰東方合の半会、亥卯の木局半会とあり、地支はかなり五行では木の勢いが強いです。

木は食傷となり、子星の官殺を剋傷することになります。

また本命式には財星(火)がないので、総合して子女縁は薄いと思われれます。

しかし、だからと言って、お子様が早世されるとは言い過ぎであり断定はできません。

お子様の生死にかかわることは、まずお子様自身の命式を第一にみるべきであり、その次に大きく関与するのは、母親の命式、次いで(三番目)に父親の命式であると考えています。

本命式は、癸日生まれですから庚・辛が用神となり、旺盛な木(食傷)の勢いを抑えて、また戊・己と日干癸の間の通関として、かつ癸の水源として金は有用な星となるはずですが、

したがって、本来、大運の庚申は吉運のはずです。

事実、ご長男を亡くされたことを契機として、四柱推命の世界に足を踏み入れて、後世に名を残す業績をあげられることになったというのは、やはり吉運ではなかったかと思えます。

さて、わたくしが申し上げたいことは、ここからです。

神理の教えでは、長男は後継ぎとして生を受けたのであり、いかなる理由があっても他家(親戚でも)に養子に入ってはなりません。

長男が他家に養子に出て、その家に他から男子を養子として迎えたなら、必ずその家は断滅します。

つまり、長男が養子に出た時点で、断滅因縁の種が蒔かれたということになります。

断滅因縁の怖いのは、男子がその家系で続かないということです。

つまり男子が産まれても、早世するか、女の子ばかりしか生まれられないということになります。

また自分の代では何ともなくても、子や孫の代に不幸な出来事が現れてくることです。

四柱推命は優れた命術で、六親縁の厚薄や吉凶もことごとくわかると言われていますが、確かに縁の厚薄はわかっても、寿命や生死にかかわることを云々するのは、勉強不足と言われるかも知れませんが、わたくしにはそこまでの鑑定技量はありません。

しかし、四柱推命や他の占術などまったく知らなくても、先程申し上げました、「長男が養子に出るとその家は男子が続かなくなり三代の内に断滅する」ことは、神理の法則のひとつの「順序の理」の教えですから、それを知っていれば子供が早世した理由も理解できますし、もし、事前に神理の教えを学んでいれば、そうした不幸は回避できたであろうと思うのです。

神理の教えは単なる因縁話ではありません。

この世の大法則であり、これを知らなければ本当の幸せを得ることはできないでしょう。

「神理の教え」〈上〉はこれでお終いです。(続く)